地域交流センター活動報告書

平成24年度



愛媛県立医療技術大学

目 次

- I 地域交流センターの設置目的及び機能
- Ⅱ 地域交流センター事業報告
 - 1. 人材育成機能
 - 1) 卒業生と在学生の交流事業「ホームカミングデー」
 - 2) 臨床検査技術講座
 - 3) 南予地区臨床検查技師研修
 - 4) 高齢者の歩行能力の向上と転倒防止等安全を高める健康づくり(公開講座)
 - 5) とべ子育てフェスタ
 - 6) おもしろ理科教室
 - 7) えひめ高校生サイエンスチャレンジコース(生物コース)
 - 8) ブックトーク&メディカルトーク
 - 9) 子育てひろば in 医技大
 - 10) キッズひろば
 - 11) 子宮頸がん啓発事業
 - 12) リレー・フォー・ライフ in えひめ
 - 2. 調查研究機能
 - 1) 高齢者の歩行能力の向上と転倒防止等安全を高める健康づくり(調査研究)
 - 2) 尿沈渣検査コンサルテーションシステムの構築
 - 3. 情報・助言機能
 - 4. 情報発信機能
- Ⅲ 教員の社会貢献活動報告
 - 1. 保険医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援
 - 2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画
 - 3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体への専門職や一般の方の相談対応
 - 4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援
 - 5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動
 - 6. 講座の地域貢献活動 1) 老年看護学領域
- IV 学生の地域交流活動報告
- V 地域への施設開放状況
- VI 参考資料
 - 1. 地域交流センターの組織
 - 2. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程
 - 3. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

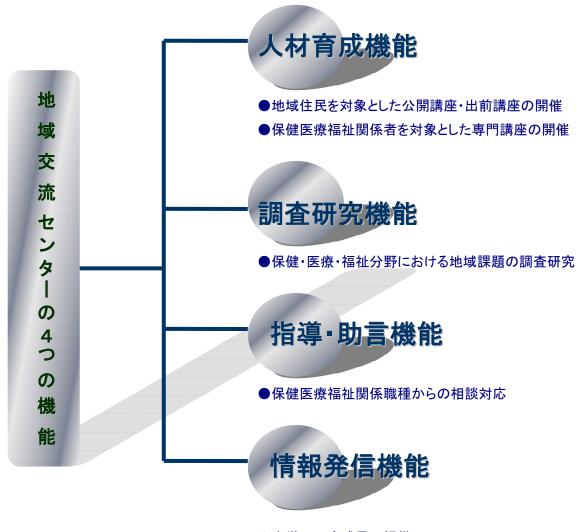
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成16年4月に設置した。

2 地域交流センターの4つの機能



- ●大学の研究成果の提供
- ●保健医療専門職の人材情報の提供

Ⅲ 地域交流センター 事業報告

Ⅱ 地域交流センター事業報告

- 1 人材育成機能
 - 1) 卒業生と在学生の交流事業「ホームカミングデー」

(同窓会木蓮会との共催事業)

1. 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

2. 連携協力期間

同窓会と大学(地域交流センター・学生委員会)の共催事業とする。

- 3. プロジェクトチーム
 - ○今年度は、学外から卒業生を招聘して実行委員会を組織化した。
 - ○遠方の卒業生参加の便官を図り、木蓮会総会開催日に併せて実施することとした。
 - ○特別講演を企画、その内容は職業の専門性ではなく、人間形成に係わるものとした。

【実行委員会】

実行委員長 地域交流センター長

実行委員:地域交流センター員

センター員以外の実行委員

看護師分野(山口利子准教授)(岡田ルリ子講師)

(渡部早人さん、愛媛県立中央病院、1991年卒)

助産師分野(今村朋子講師)(高田律美助教)

(吉良麻未さん、松山赤十字病院、 2009年卒)

保健師分野(田中美延里准教授)(窪田志穂助教)

(高田美紀さん、松山市保健所、 1992年卒)

臨床検査技師分野(坂東史郎講師)

(村上晶子さん、愛大附属病院、 2000年卒)

【プロジェクトの進行】

平成23年1月 方針決定、実行委員の組織化

2月1日18:00 第1回実行委員会開催:講演テーマ・講師の検討

2月 講師決定、分野会テーマとゲストの決定、広報チラシ作成

3月 木蓮会報発送にチラシ同封依頼

平成24年4月 特別講演講師とゲストスピーカーに依頼文書発送(本人・上司宛)

5月7日(月) 第2回実行委員会(当日の運営と役割、交流会の企画)

5月19日(土)実施、参加者アンケート

5月29日(金) 実行委員反省会、アンケート結果、

次年度企画への意見集約

6月 礼状発送、砥礪記事・センター報告書・木蓮会報記事作成

4. 事業内容

(1) 日時: 平成24年5月19日(土)13:00~16:00 場所: 医技大キャンパス、北棟階段講義室ほか

参加者:144名

<内訳> 卒業生34名、在学生92名、教員18名

実施内容 (講演要旨)

開会行事:学長挨拶、同窓会長挨拶、学部長講師紹介

記念講演:加藤俊生住職(石手寺)

テーマ

「何を思い 何を見て 何を行うか」



(実行委員の所感)

記念講演では、石手寺住職の加藤俊生先生をお招きし、被災者のための交流会や様々な支援活動の経験から、私たちはどのように行動すべきかを、深く静かに語りかけてくださいました。ひとりひとりの身体に染み込んでいったのではないでしょうか。

その後、専門領域 4 分野に分かれ、ゲストスピーカーによる講演や茶話会などを行いました。卒業生は旧交を温め、在校生は実習や就職の相談をするなど、各分野とも活発な意見交換や歓談が続きました。今後も、より多くの卒業生や在校生が参加できるよう、魅力あるイベントにしていきたいと思います。

分野	分科会テーマ	場所	ゲストスピーカー
看護師	認定看護師としての活動	南棟 116・ 117	渡部早人さん (1991 年卒) 県立中央病院 倉橋ルミさん (1996 年卒) "
助産師	自立した助産師を目指そう! 院内助産所の開設に向けて	北棟 355	本学 上野恭子准教授
保健師	保健師にとっての「絆」	北棟 257	高田美紀さん(1992 年卒)松山市保健所 山下あずささん(2010 年卒)鬼北町
臨床検 査技師	スキルアップ・研究への道	北棟 215	村上晶子さん(2000年卒)愛大付属病院 川中洋平さん(2001年卒)広島国際大学

(2) 参加者アンケートの結果

(回収率 67.5% 卒業生 21、在学生 64)

ア情報源:

卒業生・在学生とも「教員から声かけ」、次いで「チラシ」が多い

イ講 演:

卒業生は57%「良かった」 在校生は41%「ふつう」35%「良かった」

ウ分科会:

卒業生は86%「良かった」 在校生は88%「良かった」

工内容意見:

加藤住職のような素晴らしい方が愛媛におられることを知り驚いた。同じ勤務年数の人の気持ちが知りたい。

知識技術を獲得できる研修を希望。

先輩の話が聞けてとても勉強になった。次回もぜひ参加したい。

才日程意見:

日時場所は良かった。

実習や健康診断と重複しない日にしてほしい。

助産師・保健師・ケアマネジャー研修希望

☆看護師分野☆

〈参加者数〉在校生21名、卒業生3名

〈実施内容〉13:40~14:40 卒業生講演

15:00~16:00 在校生・卒業生合同茶話会

〈卒業生講演テーマ〉

○テーマ「認定看護師としての活動」

〈ゲストスピーカー〉 ・ 倉橋ルミさん (1996 年卒業) 愛媛県立中央病院勤務

・渡部早人さん(1991年卒業)愛媛県立中央病院勤務

卒業生講演では、渡部さんは手術室認定看護師としての活動を、倉橋さんはがん化学療法認定看護師としての活動について、資格習得から現在の活動内容や看護観、後輩指導などについて講演した。在校生は、これからの看護実習や就職と重ねながら熱心に聴講していた。



渡部さん

認定看護師は、「他の果樹を熟れさすりんご のような役割」と、わかりやすいお話が好 評でした。今後の、手術看護認定看護師の 増員を望まれていました。

倉橋さん

がん化学療法認定看護師として活動する 倉橋さん。講演を機会に、自分自身の活動 の振り返りや意味づけができたそうです。 目標を持って、初心を忘れないことの大切 さを語ってくれました。





☆助産師分野☆

『自立した助産師を目指そう 院内助産の開設に向けて』 上野恭子さん(本学准教授) 元 浜の町病院院内助産「なごみ」開設師長







浜の町病院院内助産「なごみ」で出産された方の声

(スライド資料から抜粋)

今回なごみコースでの出産は、本当に理想的でした。妊婦健診は毎回ゆっく り取っていただき、その時自分が納得いくまで色々聞いたり、見学させていた だいたり出来ました。上の子にも健診時エコーを見せたり、同席できたのも良 かったです。

また毎回違う助産師さんに診ていただくことで、様々な考えや情報を得ること ができ実際出産となった時も、知っている顔が何人かいらっしゃって大変安心 できました。

なるべく自然なお産がしたいということで、お産に対してより自主的に取り組 めなごみコースから外れたくない一心で、自己管理を頑張ったことが、結果的 に安産に繋がったのだと思います。

☆保健師分野☆

『保健師にとっての「絆」』

ゲストスピーカー:松山市保健所 高田美紀さん、 鬼北町役場 山下あずささん











☆臨床検査技師分野☆

『スキルアップ・研究への道』

ゲストスピーカー:愛媛大学医学部附属病院 村上昌子さん 広島国際大学保健医療学部 川中洋平さん

村上さんは、愛媛大学病院における臨床検査技師の業務について説明してくださいました。大学病院という特殊性についても知る事ができました。仕事をバリバリこなす姿がイメージできて素敵な女子でした。後輩達の育成も「お任せください」と頼りになる先輩です





川中さんは現在、大学で教育研究に従事されています。ご自身がどのように学習を積み重ねて学位を取得されたか、その過程を紹介してくださいました。大先輩が同席されていたためか、控えめな姿が印象的でした。今後のご活躍を祈ります。

女子学生に囲まれる臨床検 査技師の大大大先輩の坂東 先生。現場の仕事のやりがい やスキルアップについて、期 待を込めて語ってください ました。



5. 評価と課題

(1) ねらい・成果

卒業生にとって・・教員と旧交を温めたいが、教員の参加が少なく寂しいとの声あり。 昨年度参加し、今年卒業生として帰ってきた人が多い。 卒業後1~2年目は大学に帰って教員に相談したい、ニーズあり。

在学生にとって・・エキスパートの仕事話は、理解するのが難しい。 臨床講義より、先輩の学生時代や卒業してからの歩みを聞きたい 茶話会で個人的に聞きたいことがある。

* 今後の方向性

卒業生と在学生との交流を継続し、定着を図る。

卒業生は参加を呼びかけるターゲットを絞る。

例えば、卒後2年目が新卒と在学生に自分の道を語るような内容はどうか。 分野特性があるので対象・内容を領域に任せ、全体企画する。

(2) 広報戦略

教員からの誘いが効果的であるので、卒業研究や実習でのつながりを活かす。 チラシの業者印刷と木蓮会報への同封依頼は中止する。

木蓮会報・本学HP・砥礪・大学案内等で実施結果の報告を掲載し、印象づける。

* 今後の方向性

チラシを学内印刷し、卒業式等で配布する。

4月にクラスガイダンスで在学生周知、学内掲示する。

チラシにはゲストの紹介を詳しく載せる。

両学科の実習施設連絡会議等で周知する。

1・2年目の卒業生の就職先に案内郵送し、協力依頼する。

(3) 運営・開催日程

木蓮会総会と同日(5月第三土曜日)実施は、遠方からの帰省者にはメリットあり。 臨床検査技師・保健師分野の平日開催は不可。

学生祭日は施設管理面が容易であるが他行事と重複多い。

* 今後の方向性

4~6月は各職場や職能団体で新卒者の交流機会あり。

秋のフォローが効果的であると考えられるが、学生祭はイベントで忙しい。 次年度は、5月第三土曜日開催を継続する。

大学行事として事務局の参加を要請、学生健康診断日程等との調整を要す。 開会行事に大学理事者や学科長の講話を入れる(毎年2名程度、各 10 分) 1月から実行委員会を組織し、企画する。 2012.5. 19(土)

私の認定看護師活動

愛媛県立中央病院 がん化学療法看護認定看護師 倉橋ルミ

自己紹介

平成8年3月 愛媛県立医療技術短期大学第2看護学科卒業 4月 愛媛県立中央病院就職 外科、眼科混合病棟

平成11年2月~ 血液病棟勤務

平成21年10月~平成22年3月 日本看護協会神戸研修センター認定看護師教育課程

平成22年4月~

婦人科、総合診療内科、整形外科、糖尿内科混合病棟勤務 7月がん化学療法看護認定看護師資格取得

平成24年4月~

婦人科、乳腺甲状腺外科、呼吸器外科・内科混合病棟へ

がん化学療法看護認定看護師について

がん化学療法看護は、

- ・がん化学療法を受ける患者と家族を支え、安全を守って いくことを使命とする。
- ・がん化学療法が治療の選択肢となった時と、がん化学療法の治療期、その後の経過観察の時期の看護を専門とする。

集学的治療や臨床試験を受ける患者に関わり、治療の意思決定やがん化学療法の投与管理、個別的な症状マネジメント、患者教育などの役割がある。

認定看護師を目指そうと思ったわけ

血液疾患患者…長期間の抗がん剤による治療。 再発や治癒への不安を抱え病気と共に生きている人。

患者・家族および医療者で同じ目標に向かえるように 治療の副作用へ対処し苦痛の軽減を図り、治療を乗り越える ことができるような看護

アセスメント能力の向上。 短期入院患者に対するセルフケア支援。 役割モデル。



がん化学療法看護認定看護師について

6月 入学試験 (筆記と面接) 7月 合格発表 (課題提出)

10月 入学式

10月~12月 座学 1月~3月 実習 3月 終了試験 卒業

・全国から集まった同じ目標を持つ仲間30名

- ・刺激し合った6ヵ月間 ・神戸と愛媛の往復生活
- ・子育てと勉強の両立

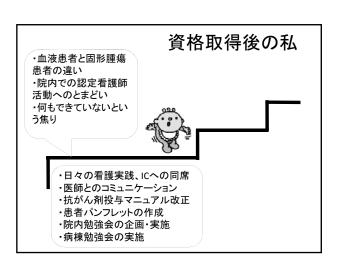


がん化学療法看護認定看護師について



- ・衰えつつある記憶力との戦い …とにかく書いて覚える 自分たちで問題と答えを作る・実習中はグループメンバーに アセスメントを聞いてもらい視野 を広げる。
- ・スイッチの切り替え 勉強も遊びも全力で





看護実践

抗がん剤による悪心嘔吐が出現した患者への看護

患者:A氏、80歳代女性

夫死後1人暮らし。子供は県外

近所の親しい知人に入院時付き添いや買物頼む

診断名:腹膜がんⅣ期(腹膜播種あり)

化学療法:Weekly TC療法開始

病状認識:腹膜がん。治療を3カ月する。

食欲がなくなったり髪の毛が抜けたりする

A氏の症状体験 投与回数 症状体験 対 処 投与1回目 「3日目から3日間ムカムカし ご飯は臭いが鼻に (2泊3日 たけどご飯は食べれた。こ つくので副食をメイ 入院) れくらいで済むのなら私は ンに食べた。 副作用が軽い方だと思う。」 投与2回目 「3日目から身体のだるさが CAP食へ変更した。 あって、4日目から吐き気が 3日目くらいから調 (1泊2日 入院) あった」 子が悪いので犬を 4日目にナゼアOD錠を内服 預けていた し悪心が軽減した A氏が使用した制吐剤 カイトリル3mg+デキサート6.6mg day1

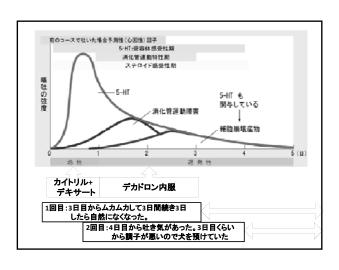
屯用でナゼアOD錠の処方があった。

day2~day3

デカドロン4mg×2(朝·昼)内服

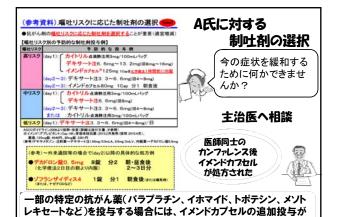
リスク分類	薬 剤 名
高リスク 90%以上	エンドキサン(1500mg/㎡以上)、コスメゲン、 ダカルバジン、ランダ、(アントラサイクリン系+エンドキサン)
中リスク 30~90%	アドリアシン、イダマイシン、イホマイド、エルプラット、エンドキサン(1500mg/㎡未満)、キロサイド(1g/㎡以上トポテシン、パラプラチン 多剤併用療法では催吐
低リスク 10~30%	5FU、アービタックス。アロス ジェムザール タキソー ノバントロン、ベフシト、 メソトレキセート、ハー から)ことから、Weekly
最小リスク 10%未満	アバスチン、エクザー)、TC療法は中リスクに分フェクス、ブレオ、ナベル類される。

抗がん剤投与後の)悪心・嘔吐分類(マニュアルP30)
①急性悪心・嘔吐	抗がん剤投与開始後1~2時間後出現。 <u>セロトニーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー</u>
②遅発性悪心・嘔吐	抗がん剤 2~5日ほ デキサートで予防でき ステロイト た。抗がん剤投与3日
③予測性悪心・嘔吐	目から悪心が出現し3 日間続いていることか 生じる悪 ら、遅発性悪心が出 的要因の 現したと考える
	ポケット版疼痛緩和マニュアル第3版より抜粋



アセスメントのまとめ

A氏の場合、催吐性は中リスクのレジメンである。急性悪心はレジメンのカイトリルとデキサートで予防はできていた。しかし3日目から症状が出現していたことから遅発性悪心が出現したと考えられる。A氏は、抗がん剤投与3日目から悪心が出現しており食べられる物を食べるという対処をしていた。また、そうすることで「これくらいで済むのなら私の副作用は軽い方だと思う。」と症状を我慢しているように見受けられた。3コースの治療をするA氏に対して、症状を軽減するための対処を考える必要があると考えた。



3回目の症状体験

イメンドカプセルを追加投与し遅発性悪心を予防する。

投与回数	症状体験	対 処
投与3回目 (入院)	事ができて楽だった。」	外来に来た時にま とめ買いをしてしば らくは外出しなくて 済むようにしている。

A氏自身が、2回目までと比べて体調が楽になったと 自覚できており、イメンドカプセルの内服は効果が あった。

今回、チームで患者の症状アセスメントを行い対処を考えるためにマニュアルを活用したことは効果的であったと考える。



短期の入院では急性期の症状のみを見がちであるが、退院後の様子をアセスメントし対処を考える必要がある。

- ・患者の治療目標を考慮し、医師と共通認識できるツールを 用いて医療者間でコミュニケーションを図り患者の苦痛緩和 のための対処方法を考える。
- ・症状緩和のためには、変化する患者の症状と患者が行っている対処を知り、アセスメントを行う。
 - アセスメントカの向上他職種との橋渡し

今後の課題

病棟勤務の私ができることは...

- ・がん患者が病気と共に生きていくための手助けをするために 外来との連携を図る。
- ・他職種と連携を図り、患者にチーム医療を提供する。
- ・多種多様ながん化学療法を安全・確実に行うためのマニュアル 作成



おわりに

- 目標を持ってください。
- 初心を忘れないでください。

□⇒前へ進むための原動力

仲間がいます。

推奨される。

□⇒ 同じ目標を持つ仲間は力になる

県病院でお会いできることを楽しみにしています。 ご清聴ありがとうございました。 手術看護認定看護師としての活動報告

愛媛県立中央病院 中央手術部次席 手術看護認定看護師 渡部 早人

プロフィール



- 手術看護認定看護師二期生(2007年)
- 看護歴21年(手術看護歴20年)
- 所属施設:愛媛県立中央病院(864床)
- 施設概要:手術室12室、年間手術件数約7300
- 勤務体制:変則3交替、3次救急受け入れ体制
- スタッフ数:42名

手術室ってどんなところ?







認定看護師制度

- 1995年に特定の分野において、熟練した看護 技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ので きる認定看護師を社会に送り出すことにより、看 護現場における看護ケアの広がりと質の向上を 図ることを目的として発足
- 手術看護分野は2003年に認定看護師分野と して特定され、2004年から東京女子医科大学 看護学部認定看護師教育センターで教育開始

手術認定看護師に求められる看護実践力 I.質の高い看護の実践

■ 少なくとも5年以上の看護として臨床経験を持ち、手術室看護師として3年以上の経験があること(認定部)
⇒手術室看護師として、器械出し・外回りの役割を十分に果たし、その行動の意味を言語化して伝える力を持つ。
⇒短い時間の中で、患者/家族の身体的・心理的状況を見抜き、ケアリング・優れた臨床判断に基づく行動をとる。
⇒その行動は、患者/家族にとって善(good)である。

認定看護師に求められる看護実践力 II.他の看護師への指導

- 技術には①手順としての技術
 - ②コミュニケーションの技
 - ③看護師として私が存在する術がある。
- ③の術は、前者と併存し、あるいは前二者に 絶えず浸透する形に在る。

指導とは、この3つを伝えること

野島良子著「看護における技術と身体」 (メディカルフレンド社、看護技術論p300 - 326

認定看護師に求められる看護実践力 Ⅲ. 看護者の相談に応える

- I で述べた実践を、自部署の看護師・看護補助者全員が実践できるよう、相談に応え、支援し、リーダーシップを発揮して、倫理的な職場文化の醸成に寄与すること。
- 言葉で伝えあうことが少なく、器械出しや外回 りの目に見える行為のみが、評価されがちな 職場文化からの脱皮。

認定看護師を目指した動機 🖏



- 手術室看護が好きだった
- 自分の手術室での経験がどこまで通用するの か知りたかった
- 他病院の手術室看護師の活動を知りたかった
- 自分のスキルアップの為
- 看護師免許以外の専門的な資格がほしかった

教育期間中の生活で困ったこと 大変だったこと

- ■レポート提出に苦労した。
- 試験勉強に苦労した。
- 睡眠不足の日々が続いた。
- ストレスと夜間のコンビ通いで太った。
- 実習施設では、思い通りに行動できなかった。
- 部屋の壁が薄くて、勉強に集中できなかった。
- 台所が小さく料理をつくるのに困った。

職場復帰してから苦労したこと

- 最初の1ヶ月は、仕事になれるまで苦労した
- 結果を出そうと、気持ちばかりが焦って、空回りして いた
- 他のスタッフのレベルが向上していた
- スタッフからの質問や相談が増加したが、自分の知識が伴ってないことが多かった
- 周手術期では、いろいろな根拠があり、どの根拠に基づいて判断したらいいのか困った
- プレッシャーで仕事をやめたいと思ったこともあった

どのようなことに注意して活動しているか?

- 根拠に基づいた説明を行う
- 相手の立場にたった説明を行う
- 相手の理解度に合わせて繰り返し説明を行う
- もしかしたら、自分が間違っているかもしれないと思い、わからないことはわからないままにしない
- 実践なくして指導・相談は行えない
- できるだけ多くの人に話しかけ、手術の進行に問題はなかったか、看護上問題はなかったのかミニカンファレンスを持つようにしている

活動内容

- ■実践
- ■指導
- ■相談

認定看護師の役割として (実践・指導・相談)

- 個人の技術を磨いて良質な看護を提供すること
- 実践モデルとなり他の看護職の看護の質 を高めること



腐ったみかんではなく、



他の果樹を熟れさすりんごのような役割

おわりに



患者が安全・安楽に手術が受けられるように、手術看護の専門性を追求し患者の代弁者としての役割を担っていく必要がある。自施設にとどまらず、地域全体として手術看護に取り組んでいく必要があり、手術看護認定看護師の増員が望まれる。

ご清聴ありがとうございました



助産外来 院内助産 位置

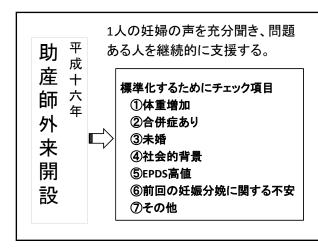


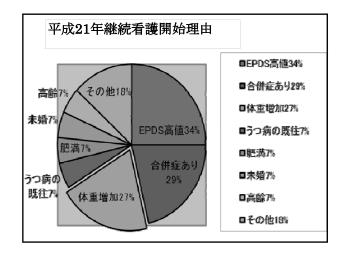
2012. 5. 19 愛媛県立医療技術大学上野恭子

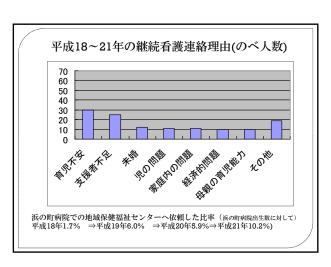
助産師の自立?

- 母子をとりまく状況から今後考えて行かなけれ ばいけないこと
- 1. 助産外来は日本では増加している
- ・助産ガイドラインの内容に準じているか
- ・妊婦健診を行なっているかetcが今後 問題になる
- 2. 院内助産システムの意味、今後の方向性









新たに必要と思われるチェック項目

- ・精神疾患がある(産後うつ既往も含む)・・・・EPDS③
- 知的障害がある・・・・・・・・・・
- ・虐待歴、被虐待歴がある
- •アルコールまたは薬物依存が現在または過去にある⑤
- ・妊娠、中絶を繰り返している
- ・望まない妊娠(産みたくない、産みたいけれど育てる自信がな いなど)
- ・多子、かつ経済的困難⑧
- ・妊娠、出産、育児に関する経済的不安(夫婦ともに不安定な就 労、無職など)⑧
- ·若年(10代妊娠)④
- ・1人親、未婚、連れ子がある再婚⑦
- ・子どもをかわいいと思わないなどの言動がある⑨
- ・夫や祖父母など家族や身近な支援者がいない⑥
- 育児知識、育児態度あるいは姿勢に偏りがある
- ・衣服などが不衛生

母子手帳手続きの説明時に、アンケート配布説明し、 前期・後期助産師外来で回収

・妊娠届をされた市町村に何年お住まいですか

(年か

・産後の育児に参加・協力してくれる人はいますか

はい・いいえ

・産後の育児に参加・協力してくれる人はいますかはい・いいえい思った時に相談する人はいますかま大きだはパートナーには何でも打ち明けることができますかはい・いいえまたまだはパートナーには何でも打ち明けることができますかはい・いいえまが実母のほかにも相談できる人がいますかはい・いいえばい・いいえばい・いいえばい・いいえばいが生産・育児において経済的な不安はありますかはい・いいえばい・いいえば、近近がかかったときの気持ちで一番近いものに〇をつけてください。1、とても嬉しかった2、予想外で驚いたが嬉しかった3、予想外で戸惑った4、国力をかった5、特に何とも思わなかった

3. 予級水に下巡り。 4. 困った 5. 特に何とも思わなかった。 ・今回の妊娠で不安や心配なことがありましたらご記入ください。 ・妊娠期間中に転出する予定はありますか

はい・いいえ

・実母には何でも打ち明けることができますか・実母がいない

はい・いいえ

外来継続表チェック項目

以前の項目

①体重増加

①体重增加 ②合併症あり

③未婚 **④社会的背景**

⑤EPDS高値 ⑥前回の妊娠分 娩に関する不安

⑦その他

改訂後の項目

②合併症有り ③EPDS高値

④若年(10代) ⑤精神疾患

⑥支援者不足

⑦家族背景

(未婚・離婚・連れ子がいる 再婚・その他)

⑧経済的問題

⑨不安

助産師外来での健診内容

	検討内容	現状
1	妊婦健診 (尿・血圧・体重・問診・視診・計測・聴診・ 内診など)	キャリアラダ— Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
2	超音波診断法やNST	п • ш • гу
3	1、2をふまえて助産診断	п • ш • г∨
4	妊娠各期の保健指導 (妊娠各期の特徴・仕事上の注意・体重管理の 必要性・出産・育児準備・情報提供)	п • ш • гу
5	生活・栄養指導 (家族を含め)	п • ш • ю
6	妊婦や出産後の乳房ケア	п • ш • ю
7	育児にかかわる相談 (上の子や家族の協力)	п • ш • г∨
8	院内助産・褥婦の一ヶ月の健康診査と相談	п • ш • г∨
9	助産師外来で必要と思われる相談	Ⅱ • Ⅲ • Ⅳ

妊産褥婦のケアの視点 1

妊娠経過に対する評価 リスク因子のスクリーニング すべての妊婦に共通する 基本的なケア

(尿・血圧・体重・問診・視診・計測・聴診・内診など) 2 紹音波診断法やNST

1、2をふまえて助産診断



正常な経過であるか?医師の診察が必要であるか?上記1・2をふまえて

助産診断する能力が必要

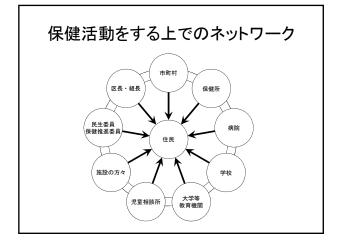
周産期における継続看護へ向けて

	不妊~妊娠	妊娠期	出産	出産 後2週 間後	1カ月	4か月	一年	思春期
Bh	・不妊相談 1. 不妊に対する不安	・助産外来 1. 正常経過の妊婦健診	·院内助産 1. 出産介助	婦地域	院全内員	会同	の会月	院外の
助産業務	 医師の不妊治療説明後の 補足・確認 	2. 前期・後期の助産師 外来の健診・指導	2. 入院期間中 の経過診察	・新生児の場合 対連携継続してい 見健診。必要なり	会同月に出産	月に出産	小	
務	3. 高度生殖医療についての 初回説明	3. 妊婦健診での継続看 護	3. 退院に向けて の指導		· し・ 4	た		
	4. 不妊治療中患者の不安へ のカウンセリング	4. 院内助産コース妊婦 健診	4. 退院診察	いるも	いるも、早期に観察指導が、動産師による母親の健診場合は、さらに継続場合は、さらに継続	の育児	人の育児・心配事・近況な	中・高・社会人から要「いのちの教育」講演
	一般妊娠妊婦に対する相談	医師の妊婦健診介助	・一般コース 出産			心配事		
	-遺伝相談	·母親学級		に観				ĵ.
継続	1. 不良胚・反復不成功者へ のケア	助産外来での要フォロー 患者継続項目	退院後の育児支 援項目	察指道				のちのま
継続看護	 高齢と治療終結者のケア 治療後外妊・流産のケア 	・体重増加・合併症・未婚・ 社会的背景・EPDS高値・前 回分娩への不安・	1. 保護者の保 育上の問題 2. 児の問題	が必要な褥		などを語る	教育」講演	
	4. OHSSの看護	その他	3. 社会的問題			任意の	る任意	典

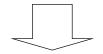


保健活動をする上で...

- ★スキルを磨くためには多くの人との関わりが必要不可欠!
- ★「住民のニーズを把握する力」と「住民の健康課題解決のために何が必要か把握する力」の両方の力を伸ばしていけるように日々精進しています。



住民と保健師(赤ちゃん訪問より)



- ★カルテに沿って赤ちゃんの様子を 把握することが精いっぱい
- ★会話が弾まない
- ★お母さんのニーズがわからない

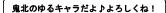




住民と保健師(健康相談)

自分の健康にあまり意識していなかった人 が病院につながったり、命の危険を未然に 防ぐことにつながったことは、わたしに とってもうれしい経験でした

仕事のモチベーションにもなりますが、改めてこのような活動の大切さを見直すことができました





他職種と保健師

継続的な支援が必要なケースに対しては、 ケース会議を開いて現状の共有、今後の 対応の意思統一を目的に話し合う



先輩保健師と後輩保健師

1年目...

同伴訪問させていただいたり、教室や指導に入らせてもらいながら、自分でやってみてうまくいかないところなどを助言いただいた。困難なケースは係会などで聞いてもらったりしました。



先輩保健師と後輩保健師

1年目...

これは役場ならでは!?

★ 事業の起案

★ 当日の教室の進行

★ 講師の依頼

★ 報償費等の支払い



一緒に確認してもらいながらひ とつの事業を1年かけて実施

先輩保健師と後輩保健師

2・3年目...

何でも基本は『ほうれんそう』! 毎年行う事業については事務作業には少しずつ慣れてくるので自分ひとりでできるようになりますが、なるペイ 補に考えてもらうようにしています。



先輩保健師と後輩保健師

こんなときにも...

落ち込んだときは励ましてもらったり、「休みさいや~」と言ってもらったり。話を聞いてもらう時間をつくってもらったりしました。



臨床検査技師のスキルアップについて

- 臨床検査技師の業務について ~愛媛大学病院を例に~
- 臨床検査技師になってからのスキルアップ ~各種資格取得について~

愛媛大学医学部附属病院 検査部 村上 晶子



愛媛大学マスコットキャラクター 「えみか」

臨床検査技師の業務について

愛媛大学病院 検査部の場合

- > 検体検査
- > 生理検査
- ≻細菌
- ➢輸血
- ≽病理

| 検体検査 | 3部署がワンフロアで検査を行っている

尿検査、便潜血検査、髄液検査、生化学検査、外注処理

▶ 免疫・遺伝子:7名

各種ウイルス検査、腫瘍マーカー、HBV/ HCV-PCR、治験の検体処理

> 血液:5名

末梢血血液検査、血液像、骨髄検査、特殊染色

生理検査:9名

心電図、呼吸機能、脳波、脈管検査、サーモグラフィー、 心エコー、血管エコー、腹部エコー、睡眠脳波 特に担当は決まっておらず、全員すべての検査をする

細菌検査:5名

薬剤感受性試験(耐性菌の検出) 薬剤感受性試験(耐性菌の判定) 疫学的情報の提供(ICTとの連携) チーム医療(給食係りの検便、ミルクの無菌検査、薬剤部の 間製液や整形の骨の無菌検査、内視鏡や各病棟の環境調査) ICTラウンドへの参加

輸血検査:3名

血液型検査、不規則抗体検査、クロスマッチ 輸血製剤の管理(赤血球濃厚液、新鮮凍結血漿、血小板)

自己血探血および末梢血幹細胞採取 採血は輸血部医師か看護師が行い、技師はその準備や補助及び製剤 の管理を行う

病理検査:5名

病理診断に用いる検体の処理(騰器切り出し、包埋、薄切、HE染色、 特殊染色など) 細胞検査士による細胞診(パパニコロウ染色) 検体(標本、ブロック)の保管管理 術中迅速検査

採血業務について

検体検査担当者は採血業務も担当する

採血業務:検査技師(検体検査担当)2名、看護師5名

- ◆ 採血のみ8時開始(技師は8:00~12:30まで担当)
- ◆ 検査機器の立ち上げおよび精度管理に1時間~1時間半は必要 化学:6台、免疫:12台、血液:5台
- ◆ 検体検査担当者は朝早番あり(朝6時半または7時出勤)
- ◆ 検体検査に配属された新人は、採血トレーニングとして職員で 最低50人採血練習を行ったのち、採血業務に入ることができる

当直業務について

- 業務内容:検体検査(時間外項目のみ) 輸血検査(血液型検査、クロスマッチ)
- 夜間は1名体制
- 休日(土日・祝祭日)は日勤1名・夜勤1名の2名体制
- 休日に勤務した場合は、代休あり
- 新人は各部署で時間外トレーニングを約3カ月~6カ月 行った後、当直業務に従事する (夜間は1名になるので、機器の扱い方や検査手技に ついて十分に訓練しておく必要がある)

大学病院(大規模病院)の 利点・欠点は・・・・?

利点

- 検査項目が幅広くいろいろな検査が経験できる
- 検査技師の数も多く、各部署にはっきり分かれている ので専門性が高い検査が行える
- 経験豊富なベテラン技師も多いため、勉強になる
- 大学病院ならではの稀な検体も経験できる
- 専門性が高いので知識が深く学べる
- 学会発表や勉強会に積極的に参加できる
- 検査業務に集中できる環境である
- 福利厚生がしっかりしている



欠点

- 病院の規模が大きいため、検査部以外と関わる事が少ない
- 各部署に分かれて仕事をしているので、検査部内でも他部署が どのような検査をしているのか詳しく分からない事がある
- 自分の希望どうりの部署に配属されるとは限らない
- 学生実習やポリクリなどの教育業務もルーチン内で行うため 大変である
- 技師会活動の中枢を担う事も多いので、休日も研修会や 学会の準備・運営などを行うこともある
- ISO15189を取得したため、その維持継続の業務が大変である



臨床検査技師になってからのスキルアップ ~各種資格取得について~

臨床検査技師になって、各業務につきルーチンを行う



日常検査業務を行うのみでは進歩がない・・・? もっと深く勉強したい!



各種資格取得



臨床検査技師を対象とする資格認定制度

- 二級臨床検査士
- 一級臨床検査士
- 緊急臨床検査士
- 細胞検査士
- 認定輸血検査技師
- 認定臨床微生物検査技師
- 認定血液检查技師
- 認定一般検査技師
- 認定心電検査技師 認定臨床染色体遺伝子検査技師
- 認定管理検査技師

臨床検査技師が資格要件となる認定制度

- 超音波検査士 健康運動指導士
- 心臓リハビリテ--ション指導士
- 第一種・二種消化器内視鏡技師認定サイトメトリー技術者
- 日本糖尿病療養指導士

認定技師: 各学会が主催した認定制度

認定輸血検査技師:日本輸血・細胞治療学会 認定臨床微生物検査技師:日本臨床微生物学会

認定血液検査技師:日本臨床衛生検査技師会 認定一般検査技師:日本臨床衛生検査技師会 認定心電検査技師:日本臨床衛生検査技師会

認定臨床染色体遺伝子検査技師:日本臨床衛生検査技師会 認定管理検査技師:日本臨床衛生検査技師会

超音波检查士:日本超音波医学会

学会会員で、かつ3年または5年以上会員であることが条件 であることが多い

受験資格(学会演題・論文投稿、経験年数、研修機関での 研修実績など)も厳しい



主任クラスの中堅技師が取得することが多い

最後に・・・・

臨床検査技師になったばかりの頃は、日々の仕事を こなすのに精一杯だった

日常検査を行うなかで、臨床側からの検査に対する 問い合わせなどについて、検査のプロとして臨床側が 納得する回答をする必要がある

- ⇒より深い知識が求められる
- ニ級試験や認定試験を受ける事により、検査の知識を 習得できるきっかけになる
- ⇒臨床検査技師としてのスキルアップ





経歴

- 平成11年 松山中央高校を卒業
- 平成14年 愛媛県立医療技術短期大学臨床検査学科を卒業
- 平成14年 西条中央病院に就職
- 平成14年 大阪成人病センター細胞検査士養成所に入学
- 平成24年 広島国際大学保健医療学部臨床工学科の助教に就任





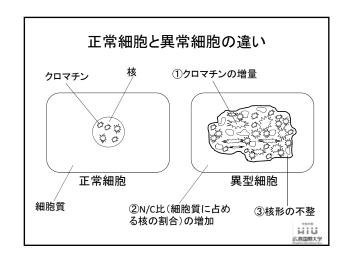
細胞検査士とは?



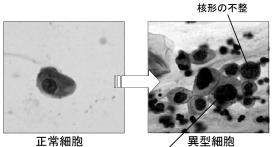
- 正常な細胞の中から、異常な細胞を見つける専門家
- 英語では、Cytotechnologist(CT)という
- 全国で約6200人が登録されている
- 試験は年1回で、一次試験(筆記)と二次試験(実技) がある







基本的な異型細胞の見方



上常袖記 乗型細形 N/C比大、クロマチン増量

細胞検査士の受験資格を得るには?

1. 細胞検査士養成コースのある大学に進学する

- •杏林大学保健学部細胞検査士養成課程
- •北里大学医療衛生学部細胞検査士コース
- •群馬大学医学部保健学科細胞検査士養成課程
- •山口大学医学部保健学科細胞検査士養成課程
- 倉敷芸術科学大学生命科学部生命医科学科(加計学園細胞病理学研究所)
- •神戸常盤大学保健科学部医療検査学科細胞検査士養成課程
- •弘前大学医学部保健学科細胞検査士養成課程



細胞検査士の受験資格を得るには?

2. 臨床検査技師の資格を取得後、細胞検査士養成所に進学し、所定の教育課程を履修する。

- 癌研究会有明病院附設細胞検査士養成所
- 東京都がん検診センター細胞検査士養成所
- 加計学園細胞病理学研究所(倉敷芸術科学大学)
- (大阪成人病センター細胞検査士養成所)

HIU

細胞検査士の受験資格を得るには?

3. 細胞診業務1年以上の実務経験をつむ。



自分で勉強して筆記試験及び実技試験に合 格する

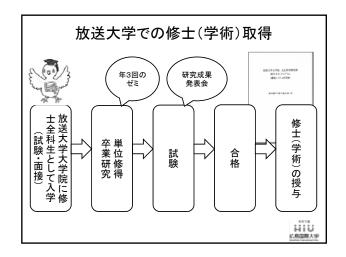


細胞検査士以外の認定資格

- 臨床検査士(日本臨床検査同学院)
 - ①一級臨床検査士
 - ②二級臨床検査士
 - ③緊急臨床検査士
- 認定検査技師(日本臨床衛生検査技師会)
 - ①認定一般検査技師
 - ②認定心電検査技師
 - ③認定臨床染色体遺伝子検査師
 - ④認定管理検査技師
- 認定血液検査技師(日本検査血液学会)
- 認定輸血検査技師(日本輸血・細胞治療学会)
- 認定臨床微生物検査技師(日本臨床微生物学会) 日本糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士機構)
- 超音波検査士(日本超音波医学会)

HIU

大学評価・学位授与機構での学士取得 げ単位」の修得が放送大学で「積み」 機構に申請大学評価・学位授与 学士 の 授与 生 合 格 試験 茡 HILL



研究活動

<論文>

- 1. <u>川中洋平</u>、木崎久喜、寺本典弘、阿部康人、前谷俊樹(2005年); 「耳下腺オンコ サイトーマの細胞像」: 愛媛県臨床検査技師会誌、通巻52、
- 2. 昆和典、川中洋平(2006年): 「血管新生に伴って現れる蛇行する細動脈」: 愛媛県立医療技術大学紀要、第3
- 巻, P17-21
- 3. 昆和典、<u>川中洋平(</u>2008年);
- 「排尿障害と肥大した前立腺における腺腔上皮細胞の過形成」、愛媛県立医療技術大学紀要、第5巻、P51-56 4. 川中洋平(2009年): 「マウスにおける排尿動態と前立腺病理組織像の関係」、放送大学大学院 修

HIU

学会活動

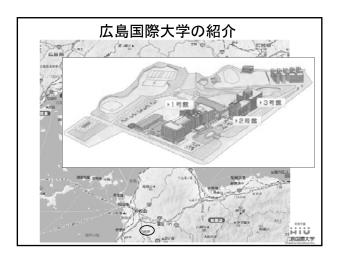
1. <u>川中洋平</u>、吉松優、昆和典(2005年); 「ガン細胞で惹起される新生血管網の構築」; 平成17年度愛媛県臨床検査学会・定 期総会

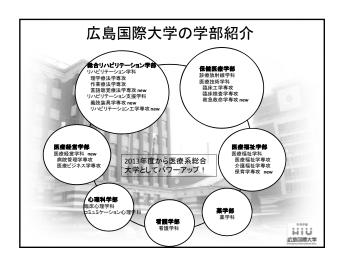
2. <u>川中洋平</u>(2005年): 「当院の細胞診精度管理の現状(isolated CTの問題);第15回日本臨床細胞学会愛 「当院の細胞診精度管理の現状(isolated CTの問題);第15回日本臨床細胞学会 機果支部総会なら以に学術集会 3. 川中洋平、昆和典(2006年); 「血管新生に伴う細動脈の蛇行」;平成18年度愛媛県臨床検査学会・定期総会 4. <u>川中洋平</u>、佐藤靖則、昆和典(2007年); 「がん細胞に向かう新生血管」;平成19年度愛媛県臨床検査学会・定期総会 5. 川中洋平、佐藤靖則、昆和典(2008年); 「新生命のサイズはかばパラエティー」で高んでいるのかい。平成20年度愛媛県

「新生血管のサイズはなぜバラエティーに富んでいるのか」;平成20年度愛媛県臨床 検査学会・定期総会 6. <u>川中洋平</u>、小野仁志、寺本典弘(2009年);

5. <u>川中子干</u>、小宇にあ、守本実血(2054年)。 「乳腺紡錘細胞癌の一例」: 平成21年度愛媛県臨床検査学会・定期総会 7. 川中洋平、昆和典(2010年)。 「マウスにおける排尿動態と前立腺病理組織像の関係」: 平成22年度愛媛県臨床検 査学会・定期総会

査学会・定期総会 8. <u>川中洋平(20</u>11年); 「子宮頸がん検診におけるペセスダシステム」; 平成22年度細胞検査士会・病理細胞





現在の担当科目

- 臨床化学実習
- 病理組織細胞学実習
- 基礎演習
- チュートリアル



HIIU



これから研究したいこと



病態モデル(腎不全)を作製し て、腎機能の変化に伴う尿中 細胞の形態変化を検討する



HIL

2) 臨床検査技術講座

1. 第1回臨床検査技術講座 -病理細胞診分野-

テーマ: Liquid-based cytology を理解するために
-SurePath 法, TACAS 法, ThinPrep 法の比較検討 -

(1) 概要

ア目的

液状化検体細胞診 Liquid-based cytology (LBC)は、確実な細胞採取と容器や溶液の工夫から、病変部細胞が観察しやすい出来上がりの差が少ない細胞診標本を得ることができる新規技術である。今回、愛媛県中予の7施設が協力して LBC の主要3方法の細胞回収率と細胞形態について比較検討を行い、その結果について報告した。

イ 対象者

県内臨床検査技師·医師

(2) 主催および協力団体

主催:愛媛県立医療技術大学地域交流センター

協力:社団法人 愛媛県臨床検査技師会

ア 講演(検討結果報告)

香川 昭博(四国がんセンター臨床検査科主任)

イ 運営

則松良明 教授

大﨑博之 准教授

ウ準備担当

佐々木信敬 助教

岡村法官 助教(地域交流センター員)

(3) 事業内容

ア 日時

平成25年3月3日(日)13:00~17:00

イ 場所

愛媛県立医療技術大学 150 階段講義室,560 病理学実習室

ウ参加者数

県内臨床検査技師25名(試験関係者含)

工 実施内容

(ア) 講演(検討結果報告)

Liquid-based cytology を理解するために

- -SurePath 法, TACAS 法, ThinPrep 法の比較検討-
- (イ) 鏡検実習

- オ 参加者の反応 (アンケート結果、回答者数 13 名、回収率 100%試験関係者除)
 - (ア) 回答者の素性
 - · 年代: 20 歳代3名、30 歳代3名、40 歳代2名、50 歳代5名
 - (イ) 講座を知ったきっかけ
 - ・ 職場宛の案内文 13名
 - (ウ) 会場について
 - 適当であった 13名
 - (エ) 講座内容の理解度

【講演】

- ①講演の内容は理解できたか。
- 理解できた8名
- ・だいたい理解できた 5名
- ・理解できなかった 0名
- ② 期待していた内容との一致度
- ・一致していた 8名
- ・ほぼ一致していた 5名
- ・一致していなかった 0名

【実習】

- ① 実習の内容は理解できたか。
- 理解できた 4名
- ・だいたい理解できた 9名
- ・理解できなかった 0名
- ② 期待していた内容との一致度
- ・一致していた 5名
- ・ほぼ一致していた 7名
- ・一致していなかった 1名
- (オ) その他(自由記載)

SurePath 法, TACAS 法, ThinPrep 法の3種類の標本が観察でき、とても勉強になりました。





(4) 評価と課題

今年度の1回目の臨床検査技術講座として病理細胞診分野の技術講座を実施した。 LBCは、不適正標本が減少させ、細胞診の精度向上を図る有力な新技術であり、今回、 主要3方法の比較検討結果について報告した。平成23年より2年間、センター事業と して、県内の臨床検査技師・医師を対象にLBCに関する講座を開講してきた。その結果、 愛媛県内の病理細胞診を専門とする検査技師、特に細胞検査士の資格を有する検査技師 にLBCに関する一定水準以上の知識と技術を教授することができた。本講座は当初の目 的を達成し、十分な成果が得られたものと考えられる。

2. 第2回臨床検査技術講座 - 血液検査分野-テーマ:技術スキルアップ講座 血液検査

(1) 概要

ア目的

末梢血の血液形態検査の基礎(標本作製、染色、細胞分類)について、基本をふり返る1講演と、血液内科のない病院で、白血病などが疑われる症例に直面した際の対処法に関する1講演を実施した。

イ 対象者

県内臨床検査技師

(2) 主催および協力団体

主催:愛媛県立医療技術大学地域交流センター

協力:社団法人 愛媛県臨床検査技師会

ア 講師

坂東史郎 講師 (プロジェクトリーダー) 渡辺智昭 (済生会松山病院検査部)

イ 準備担当

岡村法宜 助教(地域交流センター員)

(3) 事業内容

ア 日時

平成 25 年 3 月 23 日 (土) 14:00~17:00

イ 場所

愛媛県立医療技術大学 150 階段講義室

ウ参加者数

愛媛県内臨床検査技師62名

- 工 実施内容
- -技術スキルアップ講座 血液検査-

講演1 血液形態検査の基礎をふり返る

愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科

生体情報学講座 坂東史郎

末梢血の血液形態検査における標本作製〜細胞分類まで、基本をふり返りながら、忘れがちな点に焦点をあてて解説した。

講演2 血液内科のない小規模病院における血液検査室の取り組みについて

済生会松山病院検査部 渡辺智昭

血液内科のない小規模病院で、白血病などが疑われる検体に直面した際に、 どのように対応していったか、症例を提示しながら解説した。

オ 参加申し込み方法 (講師を除く60名)

メール:10名(16.7%)

公開講座参加申し込みフォーム:36名(60.0%)

FAX:11名(18.3%) その他:3名(5.0%)

カ アンケート結果(回収 55名)

① 性別

男性 13 名 (23.6%) 女性 42 名 (76.4%)

② 年代

20 才代: 20 名 (36.4%) 30 才代: 12 名 (21.8%) 40 才代: 9 名 (16.4%) 50 才代: 13 名 (23.6%) 60 才代: 1名 (1.8%)

③ 講座を知ったきっかけ

職場宛の案内文:39名(70.9%)

愛媛県臨床検査技師会ホームページ:16名(29.1%)

地域交流センターホームページ: 0名(0.0%) その他: 3名(担当者より直接): 1名(1.8%)

④ 講座内容の理解度

理解できた:38名(69.1%)

だいたい理解できた: 17名(30.9%) 理解できなかった: 0名(0.0%)

⑤ 期待していた内容との一致度

一致した:32名(58.2%)

ほぼ一致した:23名(41.8%) 一致しなかった:0名(0.0%)

⑥ 開催日時について

適当であった:54名(98.2%) 適当ではなかった:0名(0.0%)

記載なし:1名(1.8%)

⑦ 開催場所について

適当であった:55名(100.0%) 適当ではなかった:0名(0.0%)

⑧ 自由記載

- ・とても興味深い内容でした。これからも根気よく仕事に励んでいきたいと思 います。
- ・次は赤血球、血小板をお願いします。とても楽しみにしています。基礎的な 所をお願いします。
- ・日常であう判断にまよう症例。
- ・前年同様、今回も私にとっては初心に帰ることのできる有意義な勉強会でした。
- ・写真や症例が多くて良かった。
- ・骨髄検査の初心者向けをお願いします。
- ・現場ですぐに役立つ内容だったと思います。今後も宜しくお願い致します。
- ・今回の公開講座は小規模検査室に勤務する検査技師にとって非常にありがたい内容でした。可能であれば、事前に「日常で対応に困っているケース」などをアンケートで聞いて頂き、レクチャーして頂ければありがたいです。
- ・ 凝固検査について。
- ・血液の赤血球系、他の疾患の形態学も勉強したいです。
- ・非常に良かったです。また宜しくお願いします。MDS、細胞の特徴(核融解像などの例)、異常細胞の出現率(1~2を有意、異形とととれるか)。
- · MDS について。
- ・血液像の画像をたくさんみたいです。 MDS について。

(2) 評価と課題

本講座は、昨年に引き続き2回目の開催であったが、本年度は昨年より多くの検査技師の参加が得られた。また、アンケート結果が示すように、多くの出席者から講座の内容に賛同が得られた。好評の理由として、2講演とも、現場のルーチン検査で役立つ内容であったことに加えて、2名の講演者から、血液検査のベテラン技師だけでなく、初学者にも理解しやすい懇切丁寧な講演がなされためと考えられた。



坂東先生の講演風景





ユニークも交えた渡辺先生の講演風景

3) 南予地区臨床検查技師研修

南予地区尿細胞診の判定能力向上への取り組み ~南予地域中小規模病院における臨床検査技師への教育支援~

1. 概要

下部尿路(腎盂・尿管・膀胱)の悪性腫瘍の95%以上は尿路上皮癌である。この尿路上皮癌には低異型度(Low-grade)と高異型度(High-grade)があるが、特に低異型度の尿路上皮癌は尿細胞診での検出率が悪いとされている。これは、適切な検体処理が行われていないこと、細胞異型のみを重視した判定が行われていることが主な原因である。そのため、適切な検体処理と細胞異型のみでなく出現様式に着目した判定を行うことで、低異型度尿路上皮癌の検出率を改善できる可能性が高い。

そこで今回は、適切な検体処理方法と細胞判定能力向上を目的として南予地域の細胞 診に従事する臨床検査技師の教育を行う。

2. 実施主体: 本学地域交流センター

協力機関:市立八幡浜総合病院臨床検査科、宇和島社会保険病院臨床検査科

3. プロジェクトメンバー

企画者:大﨑博之 准教授、則松良明 教授

協力者:此上武典(市立八幡浜総合病院臨床検査技師長)

原 正樹 (字和島社会保険病院臨床検査技師長)

4. 事業内容

(1) 講演・実習:南予支部・県立医療技術大学地域交流センター合同尿細胞診研究会

日時: 平成24年9月22日(土) 15:00~17:20

場所:市立八幡浜総合病院 研修室

参加者:29名

実施内容:最初に大﨑が泌尿器細胞診の見方を講演した後、実際の標本を参加者と ともに顕微鏡で観察しながらポイントを解説した。その後、各施設から持ち寄られ た疑問症例についても解説した。

(2) 上記のような研修会以外にも疑問症例があった場合には随時コンサルテーションを実施している。4月1日~11月29日の期間にコンサルテーションを行った症例は、市立 八幡浜病院3症例、宇和島社会保険病院2症例、市立宇和島病院1症例、宇和島徳洲病院1症例である。また、南予以外にも愛媛大学医学部附属病院から1例提出された。

5. 評価と課題

今回アンケートを実施できていないものの研修会参加者からは好評を得た。またコンサルテーションを受けた施設の担当者からは「本当に助かる」との評価を得ている。コンサルテーションを受けた総数は8例と少ないが、検体数・施設数とも少ない南予地区が対象であるため妥当な数字と考える。しかし8症例のうち1例は愛媛県臨床検査技師会誌に症例報告として投稿済みであり、さらにもう1例の論文作成に向けて準備中である。

上記のことから本事業は南予地区中小規模病院の尿細胞診の判定能力向上に寄与できるものと考えている。

4) 高齢者の歩行能力の向上と転倒防止等安全を高める健康づくり

(愛媛県地域支え合い体制づくり事業補助企画)

1. 概要

この事業は、愛媛県地域支え合い体制づくり事業補助を得て、愛媛県立医療技術大学地域 交流センター事業として、高齢者の健康な足づくりに着目したパイロットスタディを実施し、 地域住民間の交流や健康増進に貢献することを目的とする事業である。その内容の一環とし て、本学体育館において砥部町が実施している一般住民対象のストレッチ教室参加者を対象 に、足に関する知識の提供やセルフ・フットケアの啓発を目的にフットケアに関する公開講 座を実施した。

2. プロジェクトメンバー

地域交流センター員;野村美千江 教授、岡村絹代 講師、加藤徳雄 講師、岡村法宜 助教

3. 事業内容

(1) 日時

専門職対象講座 : 平成 25 年 1 月 28 日 (月) 14:30~17:00 一般対象講座 : 平成 25 年 1 月 29 日 (火) 10:30~12:00

(2) 場所

愛媛県立医療技術大学別館3F

(3) 参加数

専門職対象講座:38名

(病院・高齢者施設等の介護職 16、病院・訪問看護ステーション等の看護師 8、地域包括支援センター職員 6、自治体保健師等 7、本学教員 1)

一般対象講座 : 37 名

(4) 実施内容

公開講座テーマ;『健康な足づくり。正しい爪の手入れとフットケア教えます!』 講師;「爪切り屋」メディカルフットケアJF協会会長 宮川 晴妃先生 内容;専門職、一般ともにフットケアに関する講義とデモンストレーション

(5)参加者の反応

専門職対象講座では、「内容が良かったので、もう少し時間をかけてじっくり聞いて 演習がしたい」、「フットケアの重要性が理解できた」、「先生ご自身が魅力的であった」 などの意見が聞かれ、デモンストレーションでは、参加者は講師の手元の動きと説明 に引き込まれていた。看護・介護現場での活用が期待できた。

一般住民対象講座では、初めて聞く足についての講演に、「爪の大切さや足を洗うこ

とを大切さがわかった」、「足の健康は全く意識していなかった」など、足の大切さについて実感していた。また、「来年もやってほしい」、「デモの時間が短かった」、「個別の質問時間がほしい」などの声も聞かれ、足からはじめる健康づくりの意識を高めることができた。





まずは、足をきれいに洗いますよ。



爪と皮膚の境をはっきりさせてから、 さあ、ニッパーを使って爪切りです。



カリスマ美容師でフットケアの



ゾンデを使って爪の間の汚れをとります。



仕上げは爪ファイルで整えます。

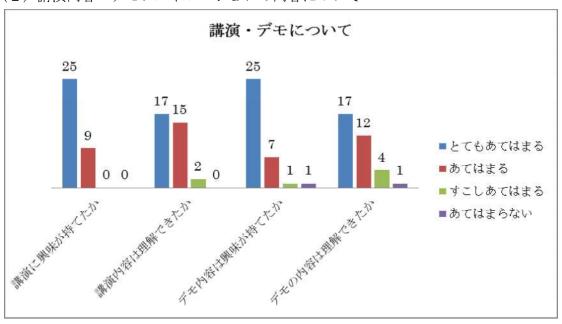
爪は、四角に切りましょう。

4. 専門職アンケート調査結果

(1) 性別

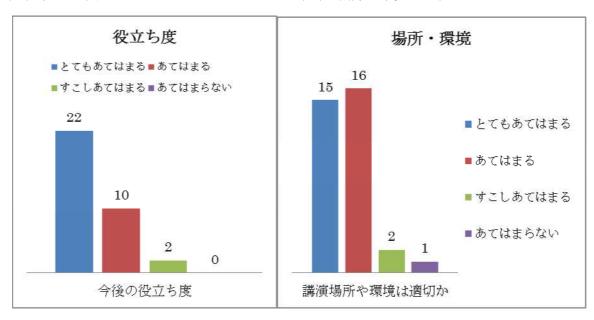


(2) 講演内容・デモンストレーションの内容について



(3) 役立ち度

(4)場所・環境の適切さ

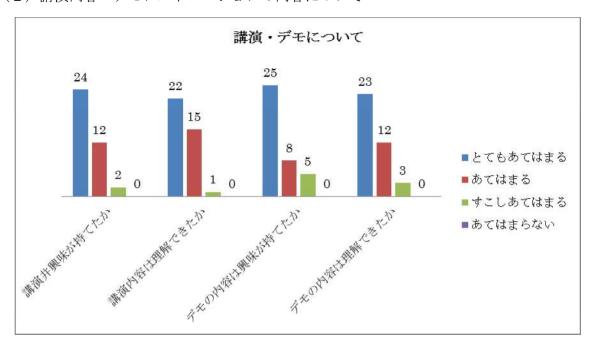


5. 一般住民アンケート調査結果

(1) 性別

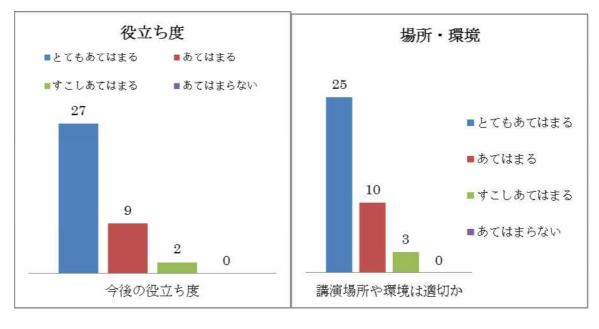


(2) 講演内容・デモンストレーションの内容について



(3) 役立ち度

(4)場所・環境の適切さ



5. その他の意見

【専門職】

<講演内容について>

- ・もう少しゆっくりとお話し、実技を見たり聞いたりできればよかったです。もっとくわ しく学べたらと思います。
- ・たいへん参考になりました。今後の仕事に役に立ちます。
- もっと時間がほしかったです。
- ・デモが少人数グループだともっと見やすく、体験型であると良いと感じた。
- ・やすりのかけ方は個々に指導して下さり、よく理解することが出来ました。
- ・とても分かりやすく、仕事はもとより自身の生活においても活用できる内容でした。
- ・見えにくい所もあり、見やすく出来たらすごく良かったと思います。
- ・デモ中の先生の手元が見にくかった。ケアの大切さがよく解った。
- ・内容、素晴らしかったです。また、先生御自身が魅力的でした。
- ・足を置く台の背もたれは NG。ビデオも見えなかった。(スクリーン明るすぎ・カメラのアングル)
- ・すぐに役立つことがあったので、やってみます。今までまちがっているところがあり、 よくわかりました。もっと勉強したいと思います。
- ・ゴミ袋を活用してベッド上での爪切りの方法など役立つ内容が多く大満足でした。
- ・内容が良かったので、もう少し時間をかけてじっくり聞いて演習できたらよい。また、 歩き方・姿勢に関するフットケアの本質・概論・各論をもっと知りたいと思いました。
- ・ 爪切りややすりをかける時に今まで間違いだらけだったと思いました。もうすこし詳しく知りたいと思いました。
- ・爪切りに対して誤解している部分があったので、非常に勉強になりました。

<開催時期について>

・平日のこの時間は、なかなか参加できません。土・日に実施していただいたら参加しや すくなります。

<広報について>

・地域交流センター公開講座の案内が欲しい。ネットでわかりますか?

【一般】

<講演内容について>

- ・とても参考になりました。爪の切り方・フットケア勉強になりました。来年もお願い致 します。
- ・介護予防をテーマにしたものを、他項目でもやってほしい。
- つめの大切さが良くわかりました。これからしっかり洗うようにします。
- もう少し時間多めにして下さい。

- ・とても参考になりました。しっかり、足を洗ってきれいにしたいです。
- ・これからは、足をよく見て、よく洗って、ふいて、クリームをぬって大事にして長くつ きあっていきたいと思います。
- ・爪の切り方の大切さ、足に対しての監察の大切さが本当によくわかり勉強になりました。
- ・足とつめの大切さが良く分かりました。これから、もっと大切に扱い気を付けます。
- ・知らない事がいっぱいありました。続きを聞きたいです。
- ・日常に生かせるものでした。ありがとうございました。2時間くらいにして技術をみたかった。
- ・安易に思っていた足がこんなに大切なものとは思いませんでした。今後に役に立てたい と思います。
- ・来年も二回目をききたいです。
- ・ケアをしていただきたい
- ・足の大切さがよくわかりました。
- ・デモの時間が少し短かった。個別の質問時間が欲しい。
- ・来年も(次回)もありますように。もう少し聞きたかったです。

<会場について>

・エレベーターがあった方がよい。もしくは階段に手すりがあった方がよい。

6. 評価と課題

地域住民と専門職を対象とした公開講座の満足度は高く、今後の生活や看護・介護に活用可能な内容であった。冬季開催のため天候不良やインフルエンザによるキャンセルが若干あったが、デモを取り入れた講演内容のため、調度良い人数であった。しかし、公開講座の募集期間が少なかったため、専門職では十分な周知と勤務調整が難しく、広報時期を早める必要があった。介護予防につながる内容や第二弾を期待する声もあり、次年度開催を検討していきたい。

5) とベ子育てフェスタ

とベ子育てフェスタ 2012~助産師・看護師お仕事体験~

1. 概要

砥部町の子育て支援環境をよりよくするために、子育て支援に関わる従事者と当事者がスキルアップを図り、子育てにやさしい町づくりを目指すきっかけをつくることを目的とする。「とべキッズお仕事体験」では、親子が興味のある職業体験をし、コミュニケーションを図り、目的をもった体験・研修を実施する。

2. 実施主体

主催:NPO法人とベ子育て支援団体ぽっかぽか

共催: 砥部町·砥部町教育委員会

後援:砥部町議会

とべ子育てフェスタ実行委員:豊田ゆかり教授

助産師ブース:上野恭子 准教授 看護師ブース:羽藤典子 助教

3. 事業内容

(1) 日時: 平成24年6月23日(土) 14:00~17:00

(2)場所:砥部町保健センター

(3) 参加者数: 助産師ブース(子ども17人、大人14人) 看護師ブース(子ども23人、大人14人)

*いずれも年齢層は、3歳~12歳

(4) 実施者と実施内容

子ども達が8人1グループで、計3ブースのお仕事を体験する流れであった。

助産師ブースでは、子どもたちにエプロンを着衣のうえで、パネルを用いた赤ちゃん誕生までの説明を受けたのち、赤ちゃんモデルを抱っこしたり、オムツの交換などを体験した。看護師ブースでは、子どもたちにユニフォーム着用後、手洗いをしたのち、『手洗いチェッカー』を用いて、洗い残しがないか、また、どの部分に洗い残しが多いのかなどを体験してもらった。親子連れの方が多く、母親にも同様に体験してもらった。また、聴診器を用いて相手の心臓の音を確認したり、三角巾を用いて骨折やけがの時の手の吊り方(提肘三角巾)を体験してもらった。

(5)参加者の反応

両親からのアンケートの内容として、「3つの仕事を体験できて楽しそうだった」、「看護師のユニフォームを着用できてうれしそうだった」、「小さい子でも大きな子でも知識を深めたり、質問することができて良かった」など感想が得られた。また、学

生ボランティアからは、「小さい子と関わる機会が少ないので、少し戸惑うこともあったが、何かを上手くできた時の子ども達の表情や喜ぶ姿をみることができて良かった」、「一人一人には個性があり、関わり方の難しさを感じたけれど、これからもいろいるな体験を通して上手な接し方を学びたい」などの感想が得られた。

4. 評価と課題(次年度へ向けての計画を含む)

各ブースには十分なスペースがあり、手洗い場についても、ブースからの距離や子ども達にとって使いやすい高さで、時間的にもスムーズに進行できた。一方、参加者の方からは、3つ目の体験では、子どもたちに少し疲労が出てきていたとの意見もいただいたため、体験数や一つあたりの体験時間の短縮なども検討してもよいのではないかと思われた。

5. 資料(教材内容、パンフレット、関係資料等)









6) おもしろ理科教室

1. 概要

地域貢献の一環として、子どもを対象に実験を通して理科のおもしろさを発見し、自然科学への興味を喚起する理科実験を実施する。開催地は本学2回,松前町3回の他に、 砥部町広田地区で1回開催する。学生ボランテイアを募集し協力を依頼する。

2. 実施主体

主催:本学地域交流センター

3. 事業内容(全6回)

(1) 第1回 砥部町広田地区 「果物電池」・「フランクリンモーター」

ア 日時:7月25日(水)9:30~11:30

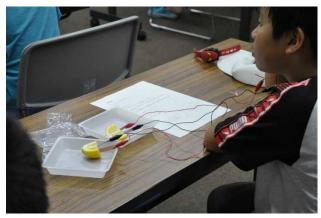
イ 場所:砥部町広田交流センター

ウ 参加者数:子ども10名、協力者2名

エ 実施者と実施内容 講師:佐川輝高 助教

・「果物電池」の実験内容: 亜鉛板と銅板に導電をつなぎ、レモンに差し込みます。 導線を電子オルゴールに接続するとオルゴールが鳴り出します。

・「フランクリンモーター」の実験内容:フランクリンモーターは静電気の性質を利用して回るモーターです。プラスチックコップの内側にアルミホイルを加工し貼り付けてモーター本体を作ります。塩ビ管をこすり本体に近づけてモーターを回転させます。







フランクリンモーター

(2) 第2回 松前町 「炭で水をきれいにしよう」

ア 日時:9月22日(土)13:30~15:00

イ 場所:松前町総合福祉センター

ウ 参加者数:子ども8名、保護者4名

エ 実施者と実施内容 講師:加藤徳雄 講師

• 実験内容

「水の浄化実験」をテーマに、炭をろ過材として用いるろ過装置を組み立て、汚れた水をきれいな水にする。家庭から出る排水を代表して米のとぎ汁・ウーロン茶・しょうゆなどを水で薄めた液を試験液としてろ過装置に流し、ろ過する前と後の液について、色・pH・COD・においを比較する。



炭で水をきれいにしよう

(3) 第3回 学生祭 「シャボン玉液をつくろう」

ア 日時:10月27日(土)13:00~15:00

イ 場所:本学 北棟 359 実験室

ウ 参加者数:子ども30名、保護者20名

エ 実施者と実施内容

講師:加藤徳雄 講師、学生ボランテイア 3名 (臨床検査学科1年)

• 実験内容

シャボン玉液原料の3~5種の液をはかり取り、混合して子どもが自分でシャボン玉液をつくる。ジャンボシャボン玉液と割れにくいシャボン玉液の2種類を用意した。さらに、大きなシャボン玉液を作るために、ストローの加工やアルミ線で輪っかづくりを行った。



原料液のはかりとり

輪っかでジャンボに

(4) 第4回 学生祭 「熱気球を作ろう」

ア 日時:10月28日(日)13:00~15:00

イ 場所:本学 北棟 359 実験室

ウ 参加者数:子ども18名、保護者4名

エ 実施者と実施内容

講師:佐川輝高 助教、学生ボランテイア 3名(臨床検査学科1年)

• 実験内容

ポリエチレン膜を加工しセロテープで貼り大きな袋を作った。これにドライヤーを利用し熱風を封じ込めると浮上させることができた。また、気球表面をデザインし飾った。



気球の上昇



気球表面にデザイン

(5) 第5回 松前町 「空気で遊ぼう」

ア 日時:11月10日(土)13:30~15:00

イ 場所:松前町総合福祉センター

ウ 参加者数:子ども3名、保護者3名

エ 実施者と実施内容 講師:佐川輝高 助教

• 実験内容

真空の実験をデモ後、簡易真空装置を作製。次に、飛行機と空気の関係を説明後、発 泡スチロール丼と紙で飛行機を作製。飛行機の羽が持ち上がる原理を体感できるおも ちゃを作製。



空気で遊ぼう

(6) 第6回 松前町 「フランクリンモーター」

ア 日時:12月15日(土)13:30~15:00

イ 場所:松前町総合福祉センター

ウ 参加者数:子ども7名、保護者7名

エ 実施者と実施内容

講師: 佐川輝高 助教

• 実験内容

風船、紙、荷造り紐、水道水などを用いて静電気を体験後、フランクリンモーターの工作を行った。当日は湿度が高く、静電気に不向きだったが、フランクリンモーターの実験では空気中の水蒸気集団の電荷移動を体験した。



人形を静電気で踊らそう

4. 参加者の反応

「楽しかった」、「おもしろかった」、「またやりたい」という声が多く聞かれた。

7) えひめ高校生サイエンスチャレンジコース(生物コース)

~平成24年度 サイエンスパートナーシップ・プロジェクト~

1. 概要

(1)目的

高等学校理科の新学習指導要領においては、思考力、判断力、表現力等をはぐくむために、観察、実験、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実させることとされている。愛媛県総合教育センターから、通常の授業あるいは単独の学校ではできないような、探究的な活動を行わせるための講座を、「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」として実施するに際し、生物領域の実験、観察とその指導のため本学地域交流センターを通して協力依頼があった。そこで、生体のホメオスタシスのメカニズムを探求していく実験を考案し、講義と実験および発表指導を行った。

2. 対象者

県立高等学校生徒

- 3. 主催 愛媛県教育委員会、地域交流センター協力
 - (1) 講師:昆和典 教授、野島一雄 准教授
 - (2) TA: 本学学生2名

4. 事業内容

(1) 日時

平成24年7月14日 (土) 10:00~16:00 平成24年7月15日 (日) 10:00~16:00 平成24年8月4日 (土) 10:00~16:00

(2) 場所

愛媛県立医療技術大学医用工学実習室 愛媛県立医療技術大学別館

- (3)参加者数 県立高等学校生徒 21名
- (4) 実施内容

ア講義

- ① 動物実験の倫理指針
- ② 各実習のねらい

イ 実習

- ① ラット中枢神経系の解剖
- ② ラット坐骨神経の伝導速度の測定
- ③ 運動負荷に伴う血糖値の変化
- ④ 運動による皮膚血流の変化
- ウ 結果のまとめとディスカッション

工 研究発表

各チームの実験データは、参加した全チームで共有し、アドバイス等の情報交換が可能な状況を作った。各チームには、それぞれ異なるテーマを与え、代表のプレゼンテーションソフトを用いて口頭発表を行った。

オ 参加者の反応(自由記載)

- ・学校では絶対できない実験・実習を経験でき、感動した。
- ・発表会では緊張したが、他校の発表を聞くことができ、大変勉強になった。それと同時に、発表の場を経験して自信を付けることができた。
- ・医療系への進学を考えていたが、決意を新たにした。

5. 評価と課題

えひめ高校生サイエンスチャレンジ(生物コース)の講義・実習を実施し、高校では 実施できない実験に、高校生達は苦戦しながらも生体機能の連携について学習し、貴重 な体験に感激していた。本事業の目的である高校生の科学に対する興味と知的探求心の 育成に十分寄与できた。前年度に引き続き実験終了後には実験動物慰霊碑で追悼式を実 施した。今年度は、動物実験とヒトによる実験を組み合わせることによって、実験を親 しみやすいものにすることができた。

8) ブックトーク&メディカルトーク

1. 事業名 ブック&メディカルトーク

第一回:愛媛県立宇和高等学校

第二回:愛媛県立宇和島南中等教育学校

2. 概要

愛媛県立図書館との共催により、愛媛県内の高校生を対象に県立図書館職員よりいの ちに関する図書の紹介と本学教員のメディカルトークをとおして、高校生に、生と死、 命、医療などを考える機会とする。

3. 実施主体•連携協力機関

本学地域交流センターと愛媛県立図書館の共催

4. プロジェクトメンバー

脇坂浩之 教授、中越利佳 講師

5. 事業内容

(1) 第一回:愛媛県立宇和高等学校

ア 日時:平成24年6月22日(金)11:45~12:45

イ 場所:愛媛県立宇和高等学校 会議室

ウ 参加者数:3年生23名、教職員7名 計30名

工 実施内容

【ブックトーク】11:45~12:10

「生と死をみつめて」というテーマで、5冊(フィクション2、ノンフィクション3)の本を紹介した。フィクションの2冊は、家族愛と臓器移植をそれぞれテーマにしたものである。また、後の3冊は、「命のバトンをつなぐ」というテーマのもので、一生懸命生きることの大切さを綴った内容のものが紹介された。

【メディカルトーク】12:10~12:45 講師:脇坂浩之 教授

日本人の死亡原因の一位であるがんについて、がんとは何か、喫煙の影響ががんの発生にどの程度影響するかなど、がん専門の外科医の立場から話された。医療系に進学希望の3年生が対象だったので、医療技術者にはどのような種類があるか、医師の一日のタイムスケジュールなどを具体的に話された。

また、手術の様子のスライドを見せながら、外科医、麻酔科医、看護師などチームで 手術を行っていること、医療現場は大勢のスタッフとの連携・協力があってこそ成り立 つものであることを話された。

オ 参加者の反応

医療系に進学を希望している学生だったので、今後の進路を考える上で、大変参考 になった。

(2) 第二回:愛媛県立宇和島南中等教育学校

ア 日時: 平成24年12月7日(金)

イ 場所:愛媛県立宇和島南中等教育学校 武道場

ウ 参加者数:3年生121名、教職員10名 計131名

工 実施内容

【ブックトーク】 愛媛県立図書館 子ども読書係長 田中ひとみ

「生と死をみつめて」というテーマで、一生懸命生きることの大切さを伝えたいと思い、5冊(フィクション1、ノンフィクション4)の本を紹介した。(別紙ブックトークリスト参照)フィクションは、臓器移植をテーマにしたもの、ノンフィクションは震災やがんによる病気によって死に直面した主人公や家族の姿を描いたものである。

どの生徒もたいへん熱心に、一生懸命聞いていたのが印象的だった。涙をぬぐいながら聞いたり、後の感想でも、自分の体験に重ね合わせて、身近な人の死について語ったりした生徒もいた。ぜひ多くの生徒に、実際に本を読んでもらいたいと思う。

【メディカルトーク】 脇坂浩之 教授

まず、日本人の死亡原因の一位であるがんについて、がん専門の外科医の立場から話していただいた。がんとは何か、喫煙の影響ががんの発生にどの程度影響するかなど、 興味深いお話であった。また、医者だけでなく他の大勢のスタッフとの連携・協力があってこそ、医療現場は成り立つものであることを話された。

生活習慣とがんの発生の関係について踏み込んだ質問をしたり、医療系に進学を希望している生徒が今後への意欲を述べたりして、生徒たちは、興味を持ってメディカルトークに臨んでいたことがうかがえた。今回のお話が今後、生活をしていく上で、また進路を考える上でもたいへん参考になったものと思う。

6. 評価と課題

県立図書館のブックトークと本学教員にみるメディカルトークは、将来の進路を決める高校生にとって有意義で教育効果が高いものとなった。次年度も県立図書館との共催で開催される予定である。





9) 子育てひろば in 医技大

1. 事業名

医技大祭キッズひろば

2. 概要

医技大祭にこられた乳幼児とその保護者のための休憩場所として利用していただき、 医技大祭を楽しんでいただく機会とする。

- 3. 実施主体・連携協力機関 本学地域交流センター
- 4. プロジェクトメンバー 岡村絹代 講師、中越利佳 講師

5. 事業内容

- (1) 日時: 平成24年10月27日(土)10:00~15:00 平成24年10月28日(日)10:00~15:00
- (2)場所:地域交流センター
- (3)参加者数:乳児と保護者:2組 小学生5名と保護者2名 合計 13名
- (4) 実施内容

授乳・おむつ交換コーナー、お絵かき・折り紙コーナー、休憩所コーナー設置

(5)参加者の反応







6. 評価と課題

利用者は少なかったが、おむつ交換や授乳コーナーは大変喜ばれていた。 お絵かきや折り紙は小学生にも人気で、次年度も継続していくとよいと思われる。

10) キッズひろば

1. 事業名 夏休みキッズひろば

第一部:ナース体験「手洗いピカピカと包帯まきまき」 第二部:おもしろ理科実験「葉脈でしおりを作ろう」

2. 概要

NPO 法人とベ子育で支援団体ぽっかぽかとの共催により、砥部町内の幼児・児童とその保護者を対象に、親子の医療・看護に関する体験活動及び理科教室を開催し、関心をもっていただく機会とする。

3. 実施主体・連携協力機関 本学地域交流センターと「NPO 法人とベ子育て支援団体ぽっかぽか」の共催

4. プロジェクトメンバー 加藤徳雄 講師、羽藤典子 助教、相原ひろみ 助教、小西円 助教

5. 事業内容

- (1) 日時:平成24年8月6日(月)10:00~12:00
- (2)場所:別館2階地域交流センター多目的室(7210)および理科実験室
- (3)参加者数:幼児・児童 15 名と保護者 12 名 計 27 名
- (4) 実施内容

【第一部】10:00~11:00

衛生学的手洗いと包帯法について、いずれも教員による紙芝居とデモンストレーションを実施後、参加者に体験してもらった。手洗いをしたのち、「手洗いチェッカー」によって洗い残しがないか、また、どの部分に洗い残しが多いのかなどを体験してもらった。親子連れが多く母子一緒の体験となった。

【第二部】11:00~12:00

おもしろ理科実験「葉脈でしおりを作ろう」の内容は資料として添付した。

(5)参加者の反応

「楽しかった」「また来たい」「お土産がよかった」などの意見をいただいた。









6. 評価と課題

昨年は初めて別館を使用したため、参加者にとって実施場所が分かりづらかったというご意見をいただいたので、今年は案内掲示を充実させた。第一部では時間内に2テーマ実施したが、関連性が分かりやすく、流れもちょうどよかった。第二部では、学生ボランテイアを期待していたが、試験や補講が入ったためその支援は受けられなかったが、助教の先生方や熱心な保護者の御協力により、予定より多い2~3枚のしおりを作成できた。開催日の前週土曜日に冷房が故障し、実施場所の変更を検討していたが、当日午前9時までに復旧したので計画通り実施できた。

夏休みキッズひろば 理科実験

2012.8.6

葉脈でしおりを作ろう

● どんな実験なの?

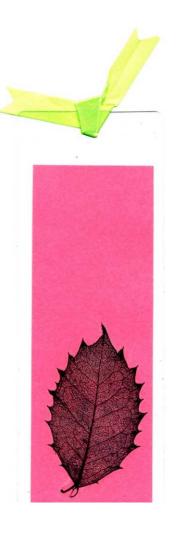
キンモクセイの葉を用いてしおりを作る

● 実験のしかた

(活動時間) 60分

- 1. 葉を水洗いして汚れをとり水をきる
- 2. 葉をアルカリ水溶液で煮て葉肉をやわらかくする (10分から1時間)
- 3. 葉を水洗いする。さらに漂白剤で漂白する (ここまで準備して会場に持ち込む)
- 4. 葉脈の働きを説明する。葉肉はアルカリと化学反応して柔らかくなることを説明する
- 5. 指や歯ブラシで葉脈から葉肉を取り除く
- 6. 紙やアイロンで水分を除く
- 7. インクや食紅で葉脈に色を付ける 蛍光ペンなど色を付ける
- 8. 好きな色の台紙を選び、その上に葉脈をのせて形を整える
- 9. パウチフィルムで台紙と葉脈をはさみ、パウチする
- 10. パンチで穴を開け、リボンを付けて完成

完成品はおみやげです。



この活動は、愛媛県立医療技術大学地域交流センターと NPO 法人とベ子育て支援団体 ぽっかぽかの共催活動です。

11)子宮頸がん啓発事業

1. 概要

この事業は、地域住民を対象に、20~30歳代の女性を対象に、近年急増している子宮頸が んについての知識と予防の啓発を行い、住民の健康活動を促進することを目的して実施した。

2. プロジェクトメンバー

則松良明 教授 (リーダー)、岡村絹代 講師、大﨑博之 准教授、山口利子 准教授

3. 事業内容 (No.1)

- (1) 日時:平成24年4月27日(金)14:30~15:45
- (2)場所:南宇和郡愛南町 御荘文化センター2F
 - 愛南町食生活改善推進協議会総会・研修会
- (3)参加者:愛南町食生活改善推進協議会 会員58名

(4) 実施内容

地域交流センターの子宮頸がん啓発チーム 2名(則松良明、岡村絹代)により、愛 南町食生活改善推進協議会の会員を対象に、「子宮がん」に対する講演の希望があった。 対象者が中高年者であったため、がんの予防や子宮がん全体に関する内容の講演とし た。

(5) 参加者の反応

参加者は、子宮がんの種類や検診の重要性についてはほとんど知らず、病気にかかっていないからこそ、定期的に検診を受ける重要性の理解を深めることができた。





女性特有のがん「子宮がん」についての講演風景

4. 事業内容 (No.2)

(1) 日時: 平成24年10月12日(金)10:00~11:30

(2) 場所:南宇和郡愛南町 御荘夢創造館

子育て支援センター「こあら」育児講座共催

(3) 参加者数:20名

(4) 実施内容

地域交流センターの子宮頸がん啓発チーム 2名(則松良明、岡村絹代)により、子育て真っ最中のお母さん 20 名を対象に、「知っていますか?子宮頸がん検診の大切さを!」をテーマとした講演を開催した。

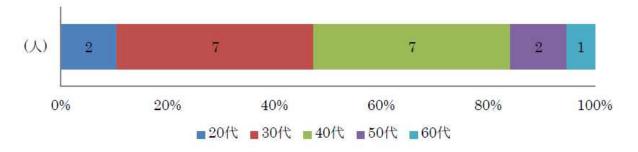
(5)参加者の反応

主婦や中学校教員、保健センター職員などが参加し、講演終了後には、参加者各人から次々と質問を受けた。中学校教員からは、「生徒に子宮頸がんの予防や検診について教えるべきだと思っているが、性について触れなければならないため、誰がどのように対応するのか難しい面がある。依頼すれば、授業を担当してくれることもあるのか?」など、現実場面に沿った深刻な相談も受けた。子育て中のお母さんたちからは、「出産のときに検診を受けたから、もう必要ないですか?」などの質問があり、正しい知識を習得できる環境整備の必要性を感じた。



(アンケート調査結果)

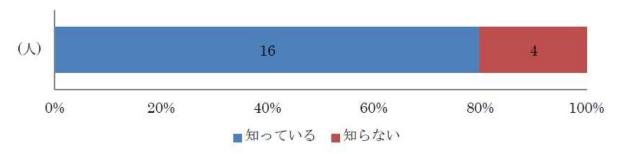
1. 参加者の年代



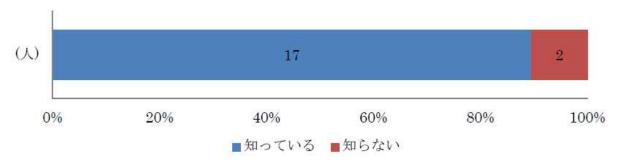
2. 子宮頸がんについての関心



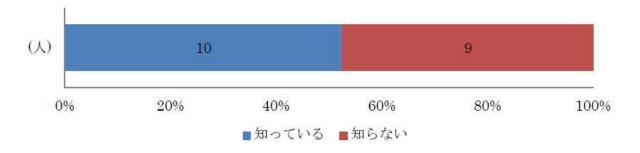
3. 子宮がんには「子宮頸がん」と「子宮体がん」があることを知っていますか?



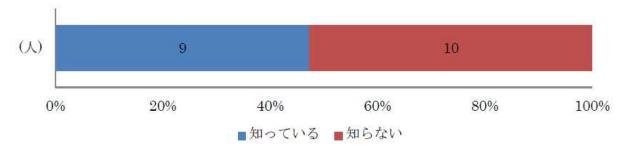
4. 日本では若い女性に子宮頸がんが増えていることを知っていますか?



5. 子宮頸がんの原因がウイルスであることを知っていましたか?



6. 子宮頸がんは性行為で感染するウイルスであることを知っていますか?



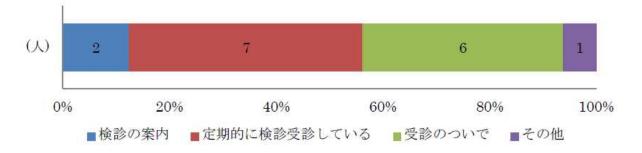
7. これまでに一度でも子宮がん検診を受けたことがありますか?



8. 最近、検診を受けたのはいつごろですか?



9. 検診を受けたきっかけは何ですか?



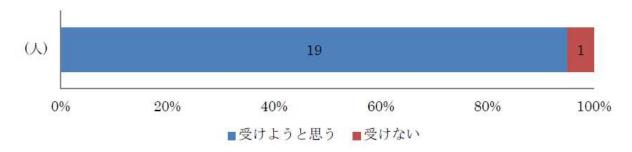
10. 検診を受けない理由は何ですか?



11. 今日の講演は役立ちましたか?



12. 今後 (これからも) 検診を受けようと思いますか?



5. 事業内容 (No.3)

(1) 日時:平成24年6月30日(土)13:30~15:30

(2) 場所:松山市 伊予鉄高島屋ローズホール

愛媛新聞子宮頸がん啓発セミナー「キレイな女性は知っている」

(3)参加数:約200名

(4) 実施内容

愛媛新聞社と愛媛県立細胞検査士会愛媛県支部とも協働のもとに、地域交流センター子宮頸がん啓発チーム3名(則松良明、山口利子、岡村絹代)と、学生ボランティア7名により、市駅前広場において、20歳代から30歳代の女性を対象に、子宮頸がん検診を呼びかけるパンフレットを約1000部配布し、啓発活動を行った。

また、子宮頸がん啓発キャンペーンでは、タレントの間下このみさんによる「女性としての生き方」のメイン講演と、四国がんセンター白山医師、ファイナンシャルプランナーによるマネー講座トークショーが行われ、私たちは会場内でパネルを使った子宮頸がんと検診についての説明や、予防の重要性を訴えました。講演の内容と活動の様子は地元新聞に掲載された。

(5)参加者の反応

街頭での啓発活動は、パンフレットの配布と呼びかけが主であった。研修会場でのパネル展示では、パネルの内容を丁寧に読んで下さり、検診内容や場所、費用についての質問も受けた。子宮頸がん啓発チームの作成した、子宮頸がん検診率に関する愛媛県内のデータについては、関心深く読んでいる様子があった。





12) リレー・フォー・ライフ in えひめ

1. 趣旨および概要

リレー・フォー・ライフ(命のリレー)とは、がん患者や家族、その支援者たちがチームを組み、交代で24時間歩き続けることにより、がん征圧への願いと絆を深め合う催しである。1985年にアメリカ対がん協会で始まり、世界的な運動となった。

日本では2006年に始まり、目的は、患者・家族・支援者を讃え支えること、亡くなった 人たちへの追悼、がんの啓発運動、募金活動。募金のうち、必要経費を除いたものは日本 対がん協会に寄付し、検診事業や若手医師の奨学金、電話相談などに充てられる。愛媛県 では2010年に第1回を開催し、今年は第3回である。

本学は、その趣旨に賛同し、第1回から継続して積極的にこの活動に参加している。今年度は、学生を主体とした全学的な組織づくりを行い、啓発や募金活動ほか当日の参加促進ならびに本部実行委員会への参加寄与も行うこととした。

2. 主催:公益財団法人 日本対がん協会 リレー・フォー・ライフえひめ実行委員会

世話人代表: 久野梧郎愛媛県医師会長 実行委員長: 松本陽子おれんじの会代表

3. プロジェクトメンバー

本部実行委員:松井美由紀 講師

加藤寛司 (看護3年)

石丸郁実(看護2年、STS部長)

上野真紀子、江本芽衣(看護1年)

学内実行委員:リレー・リーダー 蔵屋光崇(看護4年)、

サブリーダー 前田美奈(臨床3年)

古森健太郎(臨床2年)

ボランティアリーダー 阿部千波(看護4年) リレー教職員リーダー 野島一雄 准教授

4. 実施内容

- (1) 日時: 平成24年10月13日(土) 正午開会式~14日(日) 正午閉会式
- (2)場所:松山市城山公園 堀之内地区ふれあい交流広場
- (3) 本学の参加者: 当日参加は計121人

本部付役員:教員1人、学生4人

ボランティア: 看護4年10人、看護2年24人、看護1年7人 リレー: 看護学科 4年2人、3年2人、2年11人、1年22人 臨床検査学科 3年2人、2年3人、1年10人 教職員 23人

(4) 実施内容

学内結団式:平成24年10月5日(金)18:00~ 打合せ・フラッグサインルミナリエバッグ:230枚(1枚100円)、回収方法の工夫が必要

リレー参加:75人(参加費1人500円)

募金:学内教職員から RFL 本部寄付 30,000 円

リレーチーム激励寄付:学内教職員から25,600円+差し入れ多数

(5) その他

本部実行委員会参加

(5月以降毎月1回平日夜)、クイズラリー実施

南海放送ラジオ生出演

10月8日(月)9:20~「がんと向き合う」本部実行委員5人(松井講師、学生4人)

愛媛新聞 本部実行委員の事前準備状況 10月5日(金)

5. 反省と評価

本部および学内役割の遂行など、全てを学生主体で実施することができた。次年度に向けて、以下の反省を得た。

○本部実行委員会に参加した学生は、毎月の企画会議に参加、当日は自分達の提出した 企画クイズラリーを2回実施、参加者の好評を得た。実行委員長や本部メンバーからは、 引き続き次年度の参加を期待されている。今年度同様、STS サークルが主体となって実 施することが、サークル役員に申し送られ、内諾を得た。ボランティア教員とともに本 部実行委員会に参画し、イベントを盛り上げていきたい。

○リレーチームのリーダーは多人数の学生・教職員を統率し、ウォーキング・シフト計画立案とその周知、夜間や会場への交通など安全面への配慮、参加者全員が気持ちよく過ごせる飲食料品の準備、テント内の環境整備など、内部統率・外部調整の力量が求められる。今年度、リーダーがそのリーダーシップを発揮して、役割を果たすことができたのは、日頃から異なる学科・学年の学生間に築いていたネットワークが機能した点が大きい。

○次年度のリレーチーム・リーダー候補は、今年度リーダーから指名・申し送りが行われた由。学生の組織は、リーダーは看護学科4年または臨床検査学科3年が務め、ボランティアは両学科2年、リレーは1年が主体となるとよい。

次年度以降、各クラスに RFL 委員を設置し、伝達の効率化を図りたい。

○リレー参加者は、初日夕方に行われるセレモニーおよび2日目の閉会式に参加することによって達成感が得られるので、参加希望者を募る際に広報すること。

○学内結団式は、RFLの日時が決定後すみやかに日程を調整、学内に周知する。 フラッグ・サインを同日に併せて実施するための発注・準備をしておく。結団式の運営および当日の必要物品準備・搬送は地域交流センターが協力する。

6.参加者の反応



学内準備の様子 (フラッグ・サイン)

今年度の主要メンバー

- ○本部実行委員会に参画した 学生達(STS サークル)
- ○リレーチーム・リーダー
- ○ボランティア・リーダー
- ○ボランティア教員



ボランティア









総合受付のテントにおいて、受付・救護・手形フラッグ作成などをサポートしました





イベント開催中に2回、クイズラリーを実施。年齢に関係なく参加して頂きました





場内見回りやゴミ拾い、ルミナリエバッグの配置・点灯・片付けなどの体力仕事も

リレー





【1日目:開会式前】 ビブス着用し、準備OK チームフラッグを持って歩きます



開会式、晴天に恵まれました



各チームの紹介あり、リーダーが挨拶





24 時間リレー・ウォークのスタートです









クイズラリーにも参加。 実行委員会の依頼でクイズのヒントを持って歩きました。





リレー・ウォークの休憩時間には、テントを巡り見聞を広めます。





1日目の夕暮れが近づきました。 日が落ちれば、心打つセレモニーの時間です。



夜、テント内寝袋準備完了!



夜間、歩き通して爽快な朝



【2日目:閉会式】ファイナル・ウォーク 24時間、たすきをつないで達成



医療従事者の卵たちに学び多い2日間をありがとうございました。 また、来年!

2 調査研究事業

1) 高齢者の歩行能力の向上と転倒防止等安全を高める健康づくり

『加齢に伴う運動能力・足の変化・歩容に関する評価指標の検討』

(愛媛県地域支え合い体制づくり事業補助企画)

1. 概要

この事業は、愛媛県地域支え合い体制づくり事業補助を得て、愛媛県立医療技術大学地域 交流センター事業として実施したものである。高齢者の健康な足づくりに着目し、運動能力 と足の変化、歩容に関する調査 (パイロットスタディ) を行い、それぞれの関連性を明らか にすることで、ウォーキングなどの介入の効果指標として、活用の可能性を探ることを目的 に実施した。

2. プロジェクトメンバー

岡村絹代 講師、窪田志穂 助教、野島一雄 准教授、岡村法宜 助教、奥田美恵 講師、 入野了士 助教、野村 美千江教授

3. 事業内容

(1) 日時: 平成25年1月22日~平成25年3月5日 (日程)

1月	15 日(火)	第1回	調査説明会・質問紙依頼
	22 日(火)	第2回	①各種測定(ABグループ)9:30or10:30 開始(1時間程度)
	29 日(火)	第3回	公開講座(講師:宮川晴妃氏)10:30~12:00
2月	5 日(火)	第4回	②各種測定 (CDグループ) 9:30or10:30 開始 (1時間程度)
	12 日(火)	第5回	③各種測定(E F グループ)9:30or 10:30 開始(1 時間程度)
	19日(火)	第6回	測定予備日 9:30~12:00
3月	5日 (火)	第7回	結果報告会 11:00~12:00

(2)場所:愛媛県立医療技術大学別館3F

(3) 参加数:28名(女性27名、男性1名)

(4) 実施内容

今年度は、個人の健康状態や足・運動習慣に関する質問紙調査と下肢筋力、足の状態の観察、歩行能力、歩容の状態の調査および調査結果報告会を行った。

●調査風景



健康状態や運動習慣の調査



足の形状や知覚、足の力の調査



バランスの状態の調査

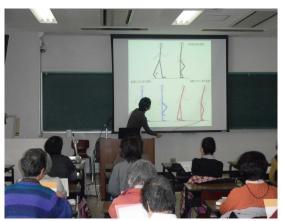


歩き方の調査

●調査結果報告会の風景



報告会開催挨拶



歩く様子の分析結果



歩く様子の分析結果



健康状態と転倒リスクの分析結果



下肢筋力、バランスの分析結果



足の形状の分析結果

(5)参加者の反応

参加者は、普段から健康に関心が高いグループであったが、これまで自分の足や歩容を意識することはなく、今回の調査を通じて自分の足や歩容に関する意識が高まっていった。

調査中は、自分の健康状態や歩き方、足の状態についての質問も多く、短い調査時間の中にも健康に関する知識の提供ができた。また、公開講座『健康な足づくり。正しい爪の手入れとフットケア教えます!』への参加は、健康な足づくりや安全な歩行への関心を高め、調査終了後も定期的な調査や知識の提供を求める声が上がった。継続して参加しているストレッチ教室に於いても、体操への取り組み方や反応にも足を意識した変化が見られ、参加者同士のコミュニケーションの中にも調査内容が話題となるなど、調査ばかりではなく地域住民の健康教育の一端も担うことができた。

4. 評価と課題

本調査は、平成24年度の愛媛県地域支え合い体制づくり事業補助企画であり、助成の決定以降、調査準備、調査実施、調査結果報告まで、時間的余裕が少ない上、調査時期が厳寒の冬期にあたるなど厳しい条件の中にありながらも、砥部町や砥部町民の協力のもとに、一連の調査を無事終了することができた。また、調査結果報告会を設けたことで、参加者の健康状態を還元することができ、健康意識をさらに高めることができた。しかし、時間的な制限があることから、本調査のテーマである「加齢に伴う運動能力・足の変化・歩容に関する評価指標の検討」に関しては、分析・検討を重ねているところである。今後は、研究メンバー間での会議を持ちながら、調査から得られた貴重なデータを看護系雑誌などで広く公表していく予定である。

2) 尿沈渣検査コンサルテーションシステムの構築

~南予地域中小規模病院における泌尿器系悪性腫瘍検出のために~

1. 概要

尿沈渣は、地方の中小規模病院においても必ず行われる検査項目であり、各種血球や 円柱のみでなく癌細胞の検出も可能である。しかし、ほとんどの中小規模病院には癌細胞を検出できる細胞検査士が勤務しておらず、尿沈渣中に腫瘍細胞が出現していても発見できない状況にある。

そこで、今回われわれは、中小規模病院における泌尿器系悪性腫瘍の検出率向上を目的として、尿沈渣検査のコンサルテーションシステムを構築する。

2. 実施主体·協力機関

実施主体:本学地域交流センター

協力機関:市立八幡浜総合病院臨床検査科、宇和島社会保険病院臨床検査科

3. プロジェクトメンバー

企画者:大﨑博之 准教授、則松良明 教授

協力者:此上武典(市立八幡浜総合病院臨床検査技師長)

原 正樹 (宇和島社会保険病院臨床検査技師長)

4. 事業内容

講演・実習:南予支部・県立医療技術大学地域交流センター合同尿細胞診研究会

日時: 平成24年9月22日(十)15:00~17:20

場所:市立八幡浜総合病院 研修室

参加者:29名

実施内容:最初に大﨑が尿沈渣と泌尿器細胞診の見方を講演した後、実際の標本を参加者とともに顕微鏡で観察しながらポイントを解説した。その後、各施設から持ち寄られた疑問症例についても解説した。

5. 評価と課題

昨年度の計画時に協力者と相談した時には希望施設があるものと想定していた。しかし、実際には現時点(11月29日)で本事業の対象となる細胞検査士のいない中小規模施設からの依頼はなかった。この原因として、尿沈渣を担当する臨床検査技師が癌細胞の検出という責任を負いたくないとの意見や、施設側との交渉が困難との意見があった。

以上の結果から本事業は一旦終了し、同時に南予地区で実施している「尿細胞診の判定能力向上への取り組み」を継続していきながら対象施設の理解と参加を促し、参加希望施設があれば再開することが妥当と考える。

3 指導・助言機能

個々の教員の社会貢献活動として、Ⅲ章に記載する。

4 情報発信機能

1. ホームページによる情報発信の強化

(1)情報発信の迅速化

本年度実施事業から、実施後1週間以内に事業報告をホームページ上に掲載するように努めた。また、新規事業に関しても、事業計画立案の段階から事業内容についてホームページ上で情報発信を行った。

(2) メニューの改善

過去の地域交流センター事業実績を年度ごとに閲覧できるメニューを設けた。さらに、トピックスとなるような事業については、その事業自体を大メニューとすることで、 閲覧者が容易にアクセスできるようにした。

(3)動画の利用

テキストと写真による情報発信だけでなく、必要に応じて動画ファイルをホームページ上からダウンロードできるようにした。

2. ホームページによる事業参加申し込みの試験的運用

ホームページで事業案内を閲覧した方が、気軽に参加申し込みが行えるようにするため、一部の事業で試験的にパソコン、携帯サイト上からメールフォームを使用して参加申し込みを行える環境を導入した。

界 儿 耳或1友℃。)文献活用講座参加申し込みフォーム	
☀は入力必須です。		
お名前 🗶		
現在のご所属	差し支えないようでしたらご入力下さい。	
メールアドレス 🗴	確認用	
電話番号		
文献活用講座への 要望等がございまし たら、ご入力下さ い。		
	問い合わせ等はここにご入力下さい。	
	(半角400字以内)	
	内容確認画面へ	

ホームページを利用した事業 参加申し込み例

Ⅲ 教員の社会貢献 活動報告

1. 保健医療機関、行政、企業、関係団体など開催の講座、研修の支援

		講座、研修会内容	
氏名	主催者	神座、斑疹云内谷 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
宮内清子	企画•実施:愛媛県	「愛媛県介護支援専門員地域リーダー養成研修」は、平成18年度から要請をスタートした"主任介護支援専門員"に、さらに地域包括ケアの力量を形成することを目的に平成22年度から新規にスタートさせた高齢者介護の地域リーダー(各市町推薦)育成のための研修であり、愛媛県長寿介護課の支援要請を受けて研修プログラムの作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、基本的な講義、県内7ブロックでの演習支援、実施後の評価に協力している。また、年2回の研修会には、講義・助言者等を務めている。担当科目:地域包括ケア体制の実現を目指すコミュニティネットワークづくりシンポジウム「市町におけるネットワーク構築の実際」コーディネーター・助言	主任介護支 護員了括与 護した 地域と対象の で を を を を を を を を を を を を を を を を を を
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛 媛県社会福祉協議 会	を組織化して毎年度評価を重ねながら、改善を図っており、平成24年度は	介護支援専 門員研修受 講資格試験 合格者
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛 媛県社会福祉協議 会	平成24年度愛媛県介護支援専門員「基礎研修」3日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに講義・演習の一部を担当。 基礎研修は、実務に就いて1年未満の実務者のスキルを定着させることを目的としており、演習を中心にしてケアマネジメントの技術を確認しつつ指導するもので、毎年度教育の評価を行い修正を加えながら展開している。担当科目:ケアマネジメントのプロセスとその基本的な考え方	介護支援専 門員就業後 1年未満の者
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛 媛県社会福祉協議 会	平成24年度愛媛県介護支援専門員「専門研修 I 」3日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、講義・演習の一部を担当。この研修は、就業後6か月以上の実務経験者の専門性を向上させることを目的としており、選択科目を導入し、個々人のニーズにも対応している。毎年度評価を行い、教育内容に修正を加えながら展開している。担当科目:ケアマネジメントを担う介護支援専門員の倫理	介護支援専門員就業後 6か月以上の者
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛 媛県社会福祉協議 会	平成24年度愛媛県介護支援専門員「専門研修Ⅱ」3日間の研修プログラム作成及び内容の検討に参画・助言するとともに、講義・演習の一部を担当。専門Ⅲ研修は、就業後3年以上の実務経験者の専門性を向上させることを目的としており、介護保険利用者の事例検討を中心に資質向上を図っている。毎年度評価を行い、教育内容に修正を加えながら展開している。担当科目:事例検討の理論と実際(演習を含む)	介護支援専 門員就業後 3年以上の者
宮内清子	企画:愛媛県 事業実施機関:愛 媛県社会福祉協議 会	平成24年度「主任介護支援専門員養成研修」は、平成18年度の介護保険法改正により都道府県に義務付けられたもので、市町村地域包括支援センターなどにおいて地域の介護支援専門員のスーパーバイザーとして卓越したマネジメント力と地域ケアネットワーク構築の役割を期待して育成するもので、12日間の研修プログラムを展開しており、一部の講義を担当している。 担当科目:主任介護支援専門員の役割と視点、事例研究及び事例検討の指導方法、地域ネットワークのつくり方(演習を含む)	介護支援専門員実務経験5年以上で、市町村の推薦を受けた者の中から選考
宮内清子	愛媛県老人クラブ 連合会 平成24年 度「健康づくり大学 校」	愛媛県老人クラブ連合会主催の11日間の研修会の運営委員長として、久 万高原町における「東予地区高齢者大学校」の企画・プログラム作成を支 援し、一部講義を担当した。 担当科目:高齢者の健康づくり	東予地区各 市町の老人ク ラブ役員及び リーダー

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
宮内清子	企画•実施:愛媛県	等に対する「たんの吸引・経管栄養等の研修」をスタートさせるに当たり、長寿介護課・障害福祉課の研修委員会の構成員として企画運営に参画し、研修対象の選定、研修プログラムの作成・研修講師の選定などについて助	愛媛県内の 特別の老 人で護ななる がかずる がアに で 護い がアに で 護 がアに で 護 る る の き さ る の き さ で き で き で き で き で う で う で う で う で う で う
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部 長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修(不特定の者対象)」における講義及び演習の講師、評価を行った。	介護職員
脇坂浩之	愛媛県保健福祉部障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修(特定の者対象)」における研修講師を行った。	介護職員
加藤徳雄	愛媛県立医療技術 大学地域交流セン ター	地元の子どもを対象に実験を通して理科のおもしろさを発見し、自然科学への興味を喚起する「おもしろ理科教室」を3回実施した。開催時期は8月に1回、10月に2回。次年度も継続的に開催したい。	子どもとその保護者
加藤徳雄	愛媛県立医療技術 大学地域交流セン ター	松前町の子どもを対象に実験を通じて科学への興味を喚起する理科実験 教室を地域貢献の一環として同町総合福祉センターで3回実施した。開催 時期は10月~12月に月1回。講座名は「ほうしこ実験キャラバンまさき」	子どもとその保護者
相原ひろみ野本百合子	十全総合病院 看護部	看護研究の研修について相談を受け、年間計画の立案・研修内容の企画 ・研修の講師を引き受けて実施した。平成23年度から計画の相談を開始し、平成25年度までかけて、看護研究の指導にあたっている。	十全総合病 院看護師
野本百合子 (羽藤典子)	放射線第一病院看護部	看護職のみならず、コメディカルスタッフの研究支援に向けて、平成24年度 看護研究研修計画の作成に関わるとともに、10月18日、11月22日の2回に わたって研究計画書に対する助言を行った。	放射線第一 病院及び関 連病院看護 師・介護職員 他医療職者
野村美千江	全国保健師教育機関協議会	全国教員夏季研修会およびブロック研修会において、客観試験問題作成力向上を目指した研修を企画し、進行した。	全国加盟校 の地域看護 学教員
野村美千江	愛媛県保健福祉部	県および市町等の中堅期保健師ほか人材育成に関する研修の企画と実施を支援した。	医療対策課 地域看護係
野村美千江	県保健所	八幡浜・西条・四国中央保健所において災害時にかかる保健師研修の支援を行った。	保健所企画 係、保健師
田中美延里	四国中央保健所	管内保健師研修会の企画と実施を支援した。	保健所企画係、保健師
田中美延里	東予地方局	管内中堅期保健師研修会の企画と実施を支援した。	保健所企画係、保健師

氏名	主催者	講座、研修会内容	支援
N'I	工作日	(開始時期、役割、経過、今後の予定など)	対象者
窪田 静	福祉用具ケア技術セミナー	在宅看護論演習のセッティングを活用した演習指導を行った。	愛媛県看護 協会訪問受講 者を中心とし た福祉用具ケ ア技術演習希 望者
奥田美惠 田中美延里 入野了士 窪田志穂	愛媛県	平成24年度愛媛県地域保健師等(新任期・プリセプター)研修会について相談を受け、企画参画兼講師として、継続的な研修各3回の内各2回を実施した。	医療対策課 地域看護係
豊田ゆかり	公益社団法人愛媛 県看護協会	看護研究のための基礎的な研究能力修得のひとつとして、計画的に研究 を進めていくための一連のプロセスを理解し、中でも、重要な要素となる文献検索の仕方、倫理的課題とその対策について知識を得る。	県内看護職
豊田ゆかり	公益社団法人愛媛 県看護協会	愛媛看護学会の研究発表会における研究の講評を行った。	県内看護職
北原悦子	第1回看護学科特 別セミナー	本学看護学科の第1回特別セミナーを学科長とともに、テーマ・講師の選定、講師との交渉、運営上の企画、役割案作成、進行、事後アンケートのまとめを行った。	本学教員、県 内の看護職
枝川千鶴子	公益社団法人愛媛 県看護協会	社団法人愛媛県看護協会会員教育「院内における看護研究指導の改善」 においてファシリテーターとしての役割を担った。	県内看護師
枝川千鶴子	公益社団法人愛媛 県看護協会	平成24年度愛媛県保健師助産師看護師等実習指導者講習会「小児看護学」の講義を担当した。	県内保健師・ 助産師・看護 師
枝川千鶴子	愛媛県保健福祉部 長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修(不特定の者対象)」における講義及び演習の講師、評価を行った。	介護職員等
枝川千鶴子	愛媛県保健福祉部 長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修(特定の者対象)」における講義及び演習の講師を行った。	介護職員等
森久美子	えひめ女性財団	平成24年度男女共同参画こらぼねっとわーく開催事業「パパママほやほや子育てセミナー」の企画・運営(進行・講演)を行った。	1歳までの子 育て中パパマ マ・妊娠中カ ップル・祖父 母
森久美子	愛媛県保健福祉部 長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修(特定の者対象)」における講義および演習の講師を行った。	介護職員等
髙田律美	日本アロマセラピー 学会	日本アロマセラピー学会の学会活動の活動の周知に努め、四国地方会開催等を実施した。地方の施設におけるアロマ導入の実態を調査に参加し、アロマセラピーの普及を推進した。	評議員
髙田律美	日本産業衛生学会	第86回日本産業衛生学会準備のための会合に参加し、学会開催のための運営に携わっている。	実行委員

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
上野恭子	愛媛県保健福祉部 長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修(特定の者対象)」における講義及び演習の講師を2日間行った。	介護職員等
上野恭子	(社)日本看護協会 福岡県支部	平成24年4月より「院内助産推進」の研修について相談を受け、企画委員と 共にして、継続的な研修企画相談をメール・電話・FAXなどで行った。次年 度の研修においてもどのよう形で実施できるか検討すると共に、内容を発 展させた企画案の相談を行っている。	福岡県看護 協会助産職 能委員
上野恭子		福岡県・市、砥部町の各小・中・高での性教育内容で、小、中学1年・2年・3年、高を対象とした成長段階にあった研修企画兼講師として継続的な講演会を延べ回数40回実施した。また次年度における研修において生徒感想文や保護者感想文をもとに担当教諭と検討すると共に、内容を発展させた企画相談を実施している。年間を通して実施、次年度も継続予定。	福岡市内養 護教諭·教員 砥部町小·中 学校養護 諭·教員
上野恭子	徳島大学病院キャ リア形成支援センタ ー	文部科学省から専門医療人材養成として助成をうけて、養成の一つとして「魅力と働き甲斐の創生による周産期医療再生」において周産期医療専門スタッフ養成研修を平成22年度より研修内容を検討し、企画している。	徳島大学病 院キャリア形 成支援センタ 一担当者
上野恭子	(社)日本看護協会 福岡県支部	神奈川県医療再生計画事業で助産師外来・院内助産所導入支援事業が平成21年度より神奈川県看護協会が委託を受け研修・実施されている。平成21年度・22年度・23年度・24年度研修を継続して研修内容・実施内容の検討を行っている。次年度の実施予定である。	神奈川県看 護協会助産 職能委員
中西純子	愛媛県立病院課	「平成24年度看護過程の展開2-実践編」計5回の研修企画、事例の選定 、レクチャー内容の点検、展開事例へのコメント等を行った。	愛媛県立中 央病院看護 師
中西純子	愛媛県保健福祉部 地域対策課	平成24年度愛媛県中小病院等看護体制支援事業「中小病院看護職員離職防止研修会」企画·運営	愛媛県内200 床以下病院 の看護管理 者
中西純子	愛媛県保健福祉部 地域対策課	平成24年度愛媛県中小病院等看護体制支援事業によるコンサルティング事業企画・運営、及び5回のコンサルティングを実施した。	愛媛県内200 床以下病院 の看護管理 者および白石 病院(今治)
中西純子	愛媛県保健福祉部 長寿介護課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修(不特定の者対象)」の研修企画、県当局および研修講師との調整、実施運営。	介護職員+指 導看護師
中西純子	愛媛県保健福祉部 障害福祉課	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修(特定の者対象)」の研修企画、県当局及び研修講師との調整、実施運営。	介護職員+ 指導看護師
山口利子	奥島病院	「フォーカスチャーティング」の研修について相談を受け、企画立案および講師として、継続的な研修を12回実施した。	看護師
松井美由紀	社団法人愛媛県看 護協会	看護協会会員教育「院内における看護研究指導の改善一看護研究指導 に必要な知識を学ぶー」のグループワークのファシリテーターを務めた。	看護職
西田佳世 岡村絹代 梶原理絵	松山市内A病院	平成24年6月に看護・介護の質の向上のための看護・介護記録の改善に関する相談を受け、「看護・介護記録をいい方向に変えていこう!」という看護・介護職員の意識を大切にしながら、実践している看護・介護が他者に伝わる記録の記載を増やし、「高齢患者への看護・介護が見える記録にする」ことを目標に、看護総師長、看護師長、各病棟主任と一緒に、無理のない研修計画を作成し、活動を開始。スタッフへの研修は10月~1月に開催し、各部署ともスタッフ自身が成果を感じることができた。	松山市内 A病院 看護·介護職 員
西田佳世 岡村絹代 梶原理絵	社団法人愛媛県看護協会	平成24年度地域看護力強化研修会(地域特性プログラム)【宇摩・新居浜・西条圏域】「高齢」ってこうなんだ!体験して知る転倒・転落ゼロへの近道。 老年看護学教員3名が、上記テーマに沿って、企画、講演(西田)、演習を通じて研修支援を行った。	看護職45名

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
岡村絹代	愛南町 保健福祉課	子育て支援センター「こあら」育児講座の開催について、企画・助言を行った。	子育で中の母 親15名
岡村絹代	愛南町 保健福祉 課	訪問介護員対象食育講座の企画・助言を行った。	訪問介護員 15名
則松良明	日本臨床細胞学会	平成24年度日本臨床細胞学会での春季大会・秋期大会の学術内容の企画の相談を受け、意見を述べた。	医師, 細胞検査士
則松良明	日本臨床細胞学会愛媛県支部	平成24年度日本臨床細胞学会愛媛県支部における学術集会での内容の 企画の相談を受け、意見を述べた。	医師, 細胞検査士
則松良明 岡村絹代	愛媛新聞社	愛媛新聞社での子宮頸がん啓発キャンペーンにおいて、企画(講演会の内容や紙面特集)に関して、助言や意見を述べた。	一般女性
坂東史郎	日本臨床検査自動化学会	「自動血球分析装置におけるスキャッターから判る異常細胞」と題した、血液検査機器技術セミナーを開催し、自動血球分析装置のスキャッターから判別できる細胞についての解説を行い、各施設の技術向上を図った。平成24年4月6日に企画会議を行い、平成24年10月11日(木)にセミナーを実施した。	全国の臨床 検査技師
坂東史郎	四国臨床検査技師 会 血液検査研究班	四国臨床検査技師会血液検査研究班世話人の一人として、平成24年8月4日に世話人会を開催し、平成24年度 第2回四国血液検査研修会の企画立案における助言等を行った。研修会は平成24年12月2日に高知大学医学で「形態から診断へのアプローチ~骨髄像の見方~」のテーマで、症例の観察と解説を実施した。	四国地区の 臨床検査技 師
坂東史郎	四国臨床検査技師 会 血液検査研究班	四国臨床検査技師会血液検査研究班世話人の一人として、平成25年1月 12日に平成25年度第1回四国血液検査研修会の企画立案における助言 等を行った。研修会は平成25年6月8~9日に愛媛大学医学部で「初心者 研修会ナイトセミナー:末梢血編」、「血液形態サーベイ報告会」、「メーカ 一講演:2題」、東太地先生による特別講演:演題未定、「研究部門:破砕赤 血球について」を実施することとなった。	四国地区の 臨床検査技 師
坂東史郎	愛媛県立医療技術 大学地域交流セン ター	平成25年3月23日に公開講座『技術スキルアップ講座 第2回血液検査』を開催した。講演は「1.血液形態検査の基本を振り返る」と「2.血液内科の無い小規模病院における血液検査室の取り組みについて」の2題を行った。	県内の臨床 検査技師
大﨑博之	四国臨床検査技師会	平成24年度の病理・細胞診部門の研修会についての相談を受け、講師の紹介と実施についての助言を行った。	四国臨床検 査技師会の 病理・細胞診 研究班班長
大﨑博之	(社)日本臨床衛生 検査技師会	平成25年に香川で開催される第62回日本医学検査学会の病理・細胞診部 門のシンポジュウムのテーマと司会・演者についての相談を受け、助言を 行った。	第62回日本 医学検査学 会の企画委 員

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

	テーマ		メンバー構成	
氏 名	(事業名・研究課題)	研究方法および結果	と所属	成果の公表
宮内清子	定 *介護予防事業評価事業	平成24年度介護予防市町支援事業の計画 策定,事業の運営について、支援委員会の 会長として役割を果たした。主な内容として 、平成23年度に作成した「介護予防に関す る指針(運動、口腔、栄養、閉じこもり・認知 症予防)」の改訂版を使用して、3市町で「複 合プログラム」を実際に試行するモデル事 業を展開し、プログラムの評価を行った。ま た、平成24年度から重点事業となった地域 包括ケアを推進するため、1地区で地区診 断の実践に助言支援を行った。	愛媛県内の介護予防に関わる関係職種(医師・歯科医師・保健師・理学療法士・ 作業療法士・歯科衛生士・介護福祉士・ 住民代表等)	①モデル地区における複合プログラムモデル事業について報告書作成②運動指導用DVDの作成
宮内清子	第5期「愛媛県高齢者保健 福祉計画・愛媛県介護保険 事業支援計画」の推進	愛媛県高齢者保健福祉計画等推進委員会の副会長として、23年度に作成した第5期の「愛媛県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画」に基づき、事業の推進方策について協議した。また、災害対策等に関する条例改正の協議に参画し、委員会としての意見をまとめた。	推進委員会の構成員:学識経験者、医師会・歯科医師会等関係団体の長、高齢者保健福祉に関わる機関施設等の代表者、住民代表など	愛媛県第5期高齢 者保健福祉計画・ 介護保険事業計 画:「新しい高齢者 保健福祉計画・介 護保険事業計画」 を公表、各関係機 関・団体等に配布。
宮内清子	第2期松山市「総合計画」の 基本構想策定	10年ごとに見直される「松山市総合計画」の 策定にあたり、保健医療福祉分野の学識経 験者として策定委員会委員を務め、関係者 からのヒアリング、委員会における基本構想 の検討に参画した。基本構想案は、12月市 議会において議決され、平成25年度に具 体的な各種計画策定の基盤として活用され る見込みである。	大学の教育・経済・ 土木工学・保健医療・法律・労働などの学 識経験者、まちづくり 関係団体・NPOなど、 一般公募委員など	第6期「松山市総合 計画基本構想」を 策定。
宮内清子	第2期伊予市地域福祉計画 ・地域福祉活動計画の策定	地域福祉計画(伊予市)・地域福祉活動計画(伊予市社協)の策定にあたり、基本的な考え方の講義、計画案の策定に参画し、伊予氏の特性の分析、計画案への反映、委員会での議論を行い、平成25年3月に計画書の完成をみた。	計策策定委員会の 構成員:学識経験者 、伊予市内の教育、 保健、福祉、地区組 織等の代表者、一般 公募委員	第2期「伊予市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定。計画書を関係者に配布、ホームページ等に公表
宮内清子	第2期「松山市地域福祉活動計画(なもしプラン)」及び地区社協活動計画の推進に関するアドバイザー	第2期松山市地域福祉活動計画の進行状況について報告を受け、24年度までの4年間の進行状況を評価し、25年度に向けての課題について方向性を協議した。平成25年度には、24年度の評価を基に本格的な計画策定に入る予定である。	委員会の構成員:学 識経験者、地域の民 生委員・PTA・地区社 協代表、まちづくり等 のNPO団体、保健福 祉関係組織代表者、 福祉業務従事者、高 齢者代表など	第2期計画の評価 を行い、25年度の 計画策定に向けて 助言を行った。
草薙康城	愛媛県 生活習慣病対策事業 女性のがん対策事業 女性の健康支援事業	平成24年度の女性のがん対策(乳がん、子宮がん)事業の企画・立案を行った。	学識経験者、保健医療関係代表者、住民代表、福祉関係団体 代表者等	一般住民を対象と した研修会、がん 啓発情報誌の作成 を行った。
加藤徳雄	天然水トリチウムの調査及び 技術に関する研究	天然トリチウム利用による水循環調査技術の開発及び推進、また、原子力活用に伴う環境影響評価としての天然水中のトリチウム濃度の監視技術の開発を行った。	大学教員, 研究所研 究員	学術誌に投稿し掲 載された。また学会 で口頭発表した。
南貴子	内閣府最先端次世代研究 開発支援プログラム「グロー バル化による生殖技術の市 場化と生殖ツーリズム」	生殖補助医療における倫理的・法的・社会 的諸問題について、家族をめぐる法と制度 の観点より、分担・研究を行っている。	研究者30名	共著を出版予定

氏 名	テーマ	事業内容(関わり方も含めて)	メンバー構成	成果の公表
	(事業名・研究課題)	研究方法および結果	と所属	722022
相原ひろみ	院内看護研究研修	院内看護研究の研修において、看護研究 計画書の書き方、データ分析、論文の書き 方等に関して、助言・指導を行った。	松山市民病院の院 内看護研究研修に 参加した看護師12名	院内看護研究発表 会及び愛媛看護研 究学会で発表した 。
野村美千江	H24年度先駆的保健活動交 流事業(現任教育体制の検 討)	中堅期保健師コンサルテーションプログラム の検討およびコンサルテーションを実施した	日本看護協会理事· 事務局、検討委員8 名	「コンサルタント企 画運営担当者の手 引き」を刊行
野村美千江	香川県中堅期保健師人材 育成研修の企画	平成25年度実施予定の香川県内中堅期保健師研修の企画担当者・コンサルタントに対して助言した。	香川県	
野村美千江	松山市健康づくり計画	新松山市ヘルスプロモーションプランの最終評価ならびに次期健康づくり計画の策定に関して助言した。	松山市保健所健康 づくり推進課	市民に公開
野村美千江	愛媛県・保健所「在宅がん 患者ニーズ調査」	県保健福祉課と県保健所の企画係がすすめている当該テーマの調査研究について助言した。	保健福祉課、保健所企画課保健師	継続中
野村美千江	愛媛県災害時保健活動体 制整備事業	愛媛県における災害時の保健衛生活動体 制整備の検討とマニュアルの作成を行った。	愛媛県保健福祉課、 保健所・市町の保健 師、保健所長会代表 、本学学部長ほか28 名	災害時保健衛生活 動マニュアルを作 成
野村美千江田中美延里	防災をテーマにした保健師 研修会の評価	研修会の企画・実施・評価のプロセスを記述し、企画担当者の働きかけと参加者の行動変容の2側面から考察した。	四国中央保健所管 内保健師研修会の 企画委員	愛媛県地域保健研究集会にて発表した。
窪田 静	保健師助産師看護師等実習指導者講習会	在宅看護論実習指導案作成	愛媛県看護協会	保健師助産師看護 師等実習指導者講 習会で発表した。
藤原紀世子	青年期〜成人期に人工呼 吸器導入となった在宅重心 者の家族の意思決定に影 響を及ぼした要因	研究計画書の作成、研究方法について、指導・助言した。 データ分析、カテゴリーの抽出を共同的に 進め、結果と考察について助言した。	県内の看護師2名	抄録をまとめ、病院 内で報告するととも に、学会で発表し た。
岡村絹代	高齢者の歩行能力の向上と 転倒防止等安全を高める健 康づくり(愛媛県地域支え合い体制づくり事業補助企画)	砥部町保険健康課と協働し、地域住民を対象に高齢者の健康な足づくりに着目したパイロットスタディを実施し、歩行機能と足の形状、歩容に関連性について分析した。	野村美千江、岡村絹 代、岡村法宣(地域 交流センター員) 奥 田美恵、窪田志穂、 入野了士、野島一雄	H25年度日本公衆 衛生学会、四国公 衆衛生学会にて発 表予定
岡村絹代	愛南町城辺小学校(城辺小 学校における食育推進の現 状と課題分析)	城辺小学校において実施している食育活 動の効果について介入研究を行った。	桑村光香(城辺小学校栄養教諭)嶋田さおり(松山東雲短期大学講師)	H25年度日本食育 学会にて発表予定
大﨑博之	尿細胞診に癌細胞が出現し た透析腎癌の1症例	尿細胞診の疑問症例についてコンサルテーションを受けているが、症例報告できる症例であったので論文にするように助言し、論文作成の指導を行った。	県外の臨床検査技 師1名	日本臨床細胞学会 雑誌に論文を投稿 中
大﨑博之	尿沈渣コンサルテーションシ ステムの構築の検討	尿沈渣の疑問症例についてコンサルテーションを受けているが、その効果について発表したいとの依頼があったため、抄録と発表の指導を行っている。		第32回高知県医学 検査学会で発表予 定

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
草薙康城	一般	愛媛県の事業である「生涯を通じた女性の健康支援事業」における不妊相談アドバイザーとして、不妊症患者の相談を行った。	月1回(心と体の 健康センター)
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科頭 頸部外科医師	平成24年4月から平成25年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援。	電話・メール
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻咽 喉科頭頸部外科医師	平成24年4月から平成25年3月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、、手術支援。	電話・メール
脇坂浩之	西条中央病院耳鼻咽喉 科頭頸部外科医師	平成24年4月から平成25年3月までの耳鼻咽喉科患者、頭頸部癌 患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術 支援。	電話・メール
鳥居順子	専門職:保健師(2名)	モデル事業の「事業評価」について、データの収集方法、集計の視点、解析の実施方法について助言を行った。	来校
鳥居順子	専門職:保健師	町の健康づくり計画の評価に関連して、SMRの算出法に関する資料を提供し、助言した。	電話・メール
田中美延里	図書館司書	健康教育に関する相談を受け、テーマに関する助言と社会資源 の情報提供を行った。	電話・メール
田中美延里	専門職:保健師	ワークショップに関する相談を受け、参考資料を紹介した。	メール
田中美延里	専門職:保健師	保健師記録に関する相談を受け、参考資料を紹介した。	メール
窪田 静	在宅看護・リハビリ従事者	福祉用具や住宅改修適応や方法等の相談	メール・電話
中平洋子	専門職:保健師	看護研究のまとめ方について、助言を行った。	来校
中平洋子	専門職:保健師	看護研究のまとめ方について、助言を行った。	メール
中平洋子	専門職:保健師	研究抄録の書き方について、助言を行った。	メール
柴 珠実	一般	受診の必要なケースについて相談を受け、社会資源の情報提供をおこなった。	来訪•電話

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
入野了士	専門職:保健師	年齢調整死亡率の算出方法について相談を受け、参考資料を紹介するとともに、相談者が算出した解について、検算を行った。	メール
豊田ゆかり	専門職:看護師(県内病院)	看護研究を実施し、その結果を学会で発表するための抄録作成 に関して相談を受け助言し承認を得た。	メール・電話・直 接面談
豊田ゆかり	専門職:看護師(県内病院)	これから看護研究を実施するための研究計画に関して相談を受け助言した。	直接面談
北原悦子	専門職:看護師(県内の 病院)	不妊カウンセラーの看護師より、事例研究を質的研究としてまとめる時の方法・分析について相談を受け、共に考えた	来校・電話・メール
北原悦子	専門職:看護師(県内の 病院)	学会発表をするにあたり、抄録の書き方、発表スライド、発表原稿 の作成の仕方について相談があり、助言を行い発表ができた	来校・電話・メール
枝川千鶴子	専門職:看護師(県内の 病院)	院内看護研究に関する相談を受け、文献紹介や調査の進め方に ついて助言を行った。	来校・電話・メー ル
中越利佳	一般	妊娠経過に関する相談があり、妊娠期の過ごし方、注意点など指導・助言を行った。	メール
上野恭子	専門職:助産師(県内の 病院)	講演会後、直接相談を受ける。具体的な内容を提示し今後も継続 的な支援を実施する予定である	電話・メール・直接面談
上野恭子	専門職:助産師(県内の 病院)	「院内助産開設」の具体的な方法、スタッフへのアプローチ、教育 方法への助言を行い、開設に向けて共に考えた。	電話6回・メール 5回
上野恭子	専門職:助産師(県内の 病院)	「院内助産開設」の具体的な方法、スタッフへのアプローチ、教育 方法への助言を行い、開設に向けて資料を提供し提案した。平成 25年度より院内助産開始予定である	直接面談
上野恭子	出産後の子育てで不安 を持つ母親	母乳哺育・離乳食・母乳トラブルなどの電話相談がありその都度メール、電話で対応した。	電話・メール・直接面談
上野恭子	乳児の手術に向けて不 安の相談	先天的に異常があるため手術に向けてそれに関係する問題の相 談	メール
中越利佳	専門職:助産師	看護研究に関する相談があり、研究の進め方、質問紙の作成、分析について助言を行った。	面談、メール
山口利子	専門職:看護師	看護研究の計画書作成について相談を受け、助言を行った。	電話
西田佳世	専門職:看護師と歯科衛 生士(県内の病院)	調査研究のまとめ方に関する助言および学会発表用資料作成の 助言	電話・メール・面 談
西田佳世	専門職:看護師と介護士 (県内の介護施設)	院内研究発表会に向けたパワーポイントの作成に関する助言、 口演発表資料の作成の助言および発表の実際に関する助言	面談

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
	70000		10100//14
西田佳世	専門職:看護教員(看護 専門学校)	面接調査のデータ分析の助言および学会発表(口演)のパワーポイントの作成に関する助言および発表の実際に関する助言、論文作成時の助言。	面談・電話・メール
岡村絹代	専門職:看護師(県内のデイサービス事業所)	デイサービスで行えるフットケア技術の情報提供と技術指導を行った。	電話•訪問
岡村絹代	専門職:老人保健施設 の看護師・介護士	デイサービスと入所者に対するフットケアの取り入れについて、情報提供と技術指導を行った。	電話•訪問
則松良明	専門職:細胞検査士(岡山県、広島県、福岡県、高知県等の複数の施設)	子宮内膜、子宮頸部、甲状腺等の細胞標本の診断について助言を行った。	標本を送付して もらい鏡検し、 結果を電話・メ ールにて報告し た
則松良明	専門職:細胞検査士(岡 山県、広島県、愛媛県等 の複数の施設)	研究およびその成果を学会発表するための原稿作成についての 助言および指導を行った。	電話・メールおよび施設へ出向き直接指導した。
則松良明	一般(県内・県外の企業)	企業での研究開発のために、病理・細胞関係の助言を行った。	来校され、助言した。
則松良明	専門職:細胞検査士(県 内の施設)	研修会のための内容の助言と適任な講師を紹介をした。	電話・メール
坂東史郎	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	4月14日:患者の末梢血標本で、血液疾患の可能性についての助言を求められ、末梢血標本を検鏡して助言を行った。	標本を送付して もらい、鏡検し た結果を電話 で報告した。
坂東史郎	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	5月13日:患者の末梢血標本で、血液疾患の可能性についての助言を求められ、末梢血標本を検鏡して助言を行った。	標本を送付して もらい、鏡検し た結果を電話 で報告した。
坂東史郎	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	8月24日:患者の末梢血標本で、血液疾患の可能性についての助言を求められ、末梢血標本を検鏡して助言を行った。	標本を送付して もらい、鏡検し た結果を電話 で報告した。
坂東史郎	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	11月25日:患者の末梢血標本で、血液疾患の可能性についての助言を求められ、末梢血標本を検鏡して助言を行った。	標本を送付して もらい、鏡検し た結果を電話 で報告した。
坂東史郎	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	1月9日:患者の末梢血標本で、血液疾患の可能性についての助言を求められ、末梢血標本を検鏡して助言を行った。	標本を送付して もらい、鏡検し た結果を電話 で報告した。
坂東史郎	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	1月28日:患者の末梢血標本で、血液疾患の可能性についての助言を求められ、末梢血標本を検鏡して助言を行った。	標本を送付して もらい、鏡検し た結果を電話 で報告した。
坂東史郎	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	2月20日:患者の末梢血標本で、血液疾患の可能性についての助言を求められ、末梢血標本を検鏡して助言を行った。	標本を送付して もらい、鏡検し た結果を電話 で報告した。
坂東史郎	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	3月16日:患者の末梢血標本で、血液疾患の可能性についての助言を求められ、末梢血標本を検鏡して助言を行った。	標本を送付して もらい、鏡検し た結果を電話 で報告した。

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
高田智世	専門職:臨床検査技師 (県内の病院)	臨床所見と合わない血液生化学検査の異常値がでたケースがあり、その原因を探索するための分析法についての知識と技術の提供を行った。	メール
大﨑博之	専門職:臨床検査技師 (県外)	尿沈渣疑問症例についての助言と指導を行った。	標本の鏡検
大﨑博之	専門職:臨床検査技師 (県内)	泌尿器細胞診についての助言と指導を行った。	面談
大﨑博之	専門職:臨床検査技師 (県内)	泌尿器細胞診についての助言と指導を行った。	標本の鏡検
大﨑博之	専門職:臨床検査技師 (県内)	体腔液細胞診についての助言と指導を行った。	標本の鏡検
大﨑博之	専門職:臨床検査技師 (県内)	尿沈渣疑問症例についての助言と指導を行った。	メール
大﨑博之	専門職:臨床検査技師 (県外)	泌尿器細胞診についての助言と指導を行った。	標本の鏡検

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏 名	支援した会の名称 と構成メンバー	支援した会や団体の特性(目的、活動 内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
宮内清子	公衆衛生看護活動に関する自主学習会「ざくざく」 構成メンバー:愛媛県内の 保健所・市町・地域包括支 援センター・行政機関等に 就業している保健師 約30 名	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、 地域における健康づくり活動について研さんすることを目 的に自主的に結成した学習会で、11年目を迎えた。 隔月開催で、平成24年度は、特定健診・特定保健指導 の受診率の低い地域の地区分析をモデル地区を決めて 実施し、年6回の学習会で共有するとともに討論を行った。また、各メンバーのキャリアアップ等をテーマに実践報 告を行うなど、討議方式で研修を行っている。	スーパーバイザーとして 参加、ミニ講義、情報提 供、テーマ学習への助言 などの役割を担っている 。
宮内清子	日本ALS協会愛媛県支部 構成メンバー:愛媛県内の ALS患者・家族・支援者等	愛媛県内の在宅ALS患者・家族・支援者などで組織しており、総会・学習会・広報活動などを行っている。本学の学生祭には3年前からバザー・署名活動などの目的で参加し、学生との交流も少しずつ進んでいる。	「顧問」として、保健医療 の専門家の立場から、社 会的支援等の助言・支援 、情報提供、相談に関わ っている。
宮内清子	NPO[チャイルド・オレンジ・ネットワーク」 構成メンバー:子ども虐待を含む地域の子育て支援に 関心のある社会福祉士、民生児童委員、臨床心理士、 保健師等	子どもの虐待防止を含む地域の子育て支援活動に取り組んでいるNPOで、松山市青少年センターを拠点に、相談活動、各種研修事業、意識啓発活動などを草の根的に推進している。また、社会福祉士会等の団体や児童相談所等とのネットワーク構築を目標の一つに掲げ、希薄になりつつある地域の繋がりや家族関係を修復していく活動を積極的に展開している。	NPOが取り組む各種事業の方向性の検討や、研修事業の企画・実施・評価等に、必要に応じて助言者的な立場で関わっている。
加藤徳雄	NPO 科学を楽しむ会ほうしこ	小学生に科学教室を提供し、科学と生活の関わりを実感しながら科学的な思考を育む手助けをすることを目的とする。砥部町内の公民館や児童館を巡回し、全5回の理科実験教室を開催した。	運営·実施
野本百合子 青木光子 岡田ルリ子 徳永なみじ 相原ひろみ 羽藤典子	看護技術教育検討会 (愛媛県東・中・南予に所在 する看護師養成機関教員)	愛媛県東・中・南予に所在する看護師養成機関教員によって結成され、看護技術教育に焦点をあてた検討会である。共同で研究活動を行うとともに、県内看護教員を対象とした夏合宿の開催、報告書の発行等、看護技術教育の向上に向けた活動を実施し、情報の発信・交換を行っている。	・会員として、定例会や
窪田 静	愛媛福祉用具ケア技術研究会	第1回えひめ福祉用具フェアフロアーセミナーを開催した。	講師養成 教材作成指導 継続勉強会の企画運営 と指導
柴 珠実	新居浜ピック病家族会	・今年度からの集まりで、2~3カ月に一度開催 ・本人と家族の困りごとや悩みの共有の場 ・他の家族の経験や介護方法から学ぶ (仲間づくり) ・専門医、看護師、臨床心理士、PSW等が参加	看護職として支援につな げる 今後の家族による運営に 向けた支援
豊田ゆかり	砥部子育て会議	砥部町の子育てに関連する活動している団体や関係者 が集まり、情報共有会議・活動やイベントの協力を行った。	情報提供·活動参加·協力
豊田ゆかり	砥部町「ぽっかぽか」主催 砥部子育てフェスタ	砥部町子育て支援団体「ぽっかぽか」が主催する、子育 てフェスタにおいて、企画・運営を行い、子どものお仕事 体験「看護師体験」ブースに協力した。	企画・運営・活動参加
上野恭子	子ども共育HAKATA	「子ども共育HAKATA」は、2002年の日本ホスピス在宅ケア研究会全国大会in福岡を契機に生まれたグループで、子どもと大人がともに、いのちを学ぶ1年生として、一緒にまなぶワークショップを中心に、活動を実施。2012企画で、いのち誕生現場を、小・中・高・社会人が直接訪問する、産婦人科病院の相談・助言を行った。	いのちのワークで病院訪問での病院との交渉内容説明を行い、活動を理解してもらい病院訪問の実施が出来た。

氏 名	支援した会の名称 と構成メンバー	支援した会や団体の特性(目的、活動 内容、今後の予定など)	教員の役割 支援内容
上野恭子	NPO法人とベ子育て支援 団体ぽっかぽか	砥部町の子育て支援環境をよりよくするために、子育て支援に関わる従事者と当事者がスキルアップを図り、子育てに優しい町づくりを目指すきっかけを作る。「とベキッズお仕事体験」では親子の興味ある職業体験で助産師の仕事を紹介し、コミュニケーションを図り、目的を持った体験及び研修を実施する。	賛助会員として活動に参加、企画運営の実施
今村朋子	一般社団法人愛媛助産師 会 お産自主学習グループ	愛媛県内の助産師を中心として、出産に向けたより良い ケアについての学習を深めるためのグループの活動を支援した。	運営委員・研修の企画と 講師としての支援
中西純子	高次脳機能障害者を支え る会(家族会)「あい」	愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎月1 回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との情報 交換、相談支援をしている。	顧問として相談・助言
岡村絹代	NPO法人愛と心えひめ	H24年度の総合的な研修企画について、助言を行った。	研修内容に関する助言
岡村絹代	がん相談センター(高知県)	高知県内における子宮頸がん検診受診の現状を分析し 、検診受診率の向上のための助言を行った。	アンケート調査の分析と 情報提供
岡村絹代	NPO法人霧島食育研究会	毎年、同法人が実施している「霧島食の文化祭」で行うア ンケート用紙の作成と分析について助言を行った。	アンケート調査の分析と 情報提供

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏 名 委員会や団体 の名称		関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名	
宮内清子	愛媛県介護保険審 査会	県内市町における介護保険事業の実施において、住民から出された 各種の申し立てに対する審査を実施する組織で、弁護士・保健福祉分 野の専門職・公益代表等で構成されている。	保健福祉関係委員	
宮内清子	愛媛県介護予防市町支援委員会	市町の介護予防に関する施策の円滑な推進を目的に、平成18年度から設置されており、市町の介護予防事業の進捗状況の把握及び事業評価、地域包括支援センターの運営支援、介護予防事業のプログラム開発及び指導教材作成等を行っている。平成24年度は、前年度に改定した「介護予防に関する指針」を用いて、「複合プログラム」の試案づくり、モデル事業の実施と評価、運動指導のDVD作成等に取り組んだ。	委員長	
宮内清子	愛媛県高齢者保健 福祉計画等推進委 員会	平成11年度から愛媛県の高齢者保健福祉対策に関する計画策定、進行管理、進捗状況及び成果の評価などを行う目的で設置されており、3年ごとに実態把握・評価を行い計画の修正を行っている。平成24年度は、第5期計画に基づく事業の進捗状況の確認、災害時における施設等の体制整備に関する条例改正案の策定に関わった。	副委員長	
宮内清子	松山市社会福祉審議会	高齢者専門分科会、民生・児童委員審査専門分科会に所属し、担当分野の審議を行う。平成24年度は、第5期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進行管理、民生委員交代の審査等に関わった。	委員(学識経験者)	
宮内清子	松山市「第二期総合計画」第定委員会	10年ごとに見直し・策定される松山市総合計画の骨格となる「基本構想」の策定に向けて、基本案の作成⇒市民公開⇒最終案のまとめを行う委員会であり、保健医療福祉、地域づくりの観点から意見を述べ、基本構想案の策定に関わった。	委員	
宮内清子	日本地域看護学会	地域看護学の学術的発展と教育・普及を目的とする学会。 評議員会に参加し、学会運営等に関する協議を行う。 また、平成24年度から、学会誌の査読委員を務めている。	評議員、 学会誌査読委員	
宮内清子	新居浜市地域包括 支援センター運営協 議会	新居浜市の介護予防事業の要である地域包括支援船体の運営に関する外部機関として設置されており、センター事業の的確かつ公平・公正な運営に関して助言・支援・評価を行う。また、市町が認可する介護予防関連施設の選定について、諮問を受ける。	委員(学識経験者)	
宮内清子	松山市社会福祉協 議会社会福祉活動 推進委員会	松山市の委託を受けて、松山市社会福祉活動計画の策定をはじめ地域福祉活動の計画(なもしプラン)の策定・進行管理、地区社会福祉協議会活動の支援を行う。	委員、アドバイザー	
宮内清子	西条市介護保険事 業計画策定委員会	平成11年度から介護保険事業計画の策定、進行管理、事業の評価等を目的に設置されており、3年ごとに実態把握・評価を行い計画の見直しを行っている。平成24年度は、23年度に策定した第5期計画の進行管理、災害に対する高齢者施設等の体制整備に関する規則等の整備について役割を果たした。	委員(学識経験者)	
宮内清子	松前町高齢者福祉計画策定委員会	平成11年度から介護保険事業計画の策定、進行管理、事業の評価等を目的に設置されており、3年ごとに実態把握・評価を行い計画の見直しを行っている。平成24年度は、23年度に策定した第5期計画の進行管理、介護保険サービスの資質向上について検討を行った。	委員(学識経験者)	
宮内清子	愛媛県精神医療審 査会	愛媛県内の精神保健福祉法に基づく医療保護入院の申請書類について審査を行い、記載内容の適切性、医療保護の必要性・妥当性について審査を行う。	委員(専門職)	
宮内清子	愛媛県障害者介護 給付費等不服審査 会	障害者自立支援法に基づく介護給付について、市町の給付決定に対して不服がある場合愛媛県に不服審査の請求が出されるため、その審査を行うために設置されている委員会であり、審査事案が提出された際の審査に関わっている。	委員(専門職)	
宮内清子	愛媛県看護協会「看護師等の育成に関する推進協議会」委員	愛媛県内の看護師等の研修の現状と課題を関係者が共通認識し、今後の育成の在り方を検討することにより、質の高い看護師等の確保・定着を図ることを目的に、平成23年度に愛媛県の委託事業として設置された。検討期間は3年間で、県内各地の特性やニーズに応じた研修体制の在り方について情報交換を行うとともに、2年目の事業の進行について検討をスタートした。	委員(看護教育関係 者)	

氏 名	委員会や団体 の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
宮内清子	平成24年度介護職 員等によるたんの吸 引等を実施するため の研修委員会(不特 定の者対象) (特定 の者対象)	平成23年度の介護保険法一部改正により、一定の条件下において介護職員等のたんの吸引等の医行為を実施することができることになり、各都道府県が研修を実施する必要性が生じたことから、受講者の実技及び筆記試験の合否を判定する目的で設置された。24年度は、長寿介護課及び障害福祉課の養成を受けて研修機関として参画し、事業の企画・運営・受講者の評価判定に関わった。	委員(専門職)
草薙康城	日本産科婦人科学会	本邦の産婦人科学の発展と産婦人科医療の向上をはかる。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	代議員
草薙康城	日本産科婦人科学 会専門医制度審査 会	日本産科婦人科学会専門医認定のための筆記試験、面接審査を行う。	委員
草薙康城	日本妊娠高血圧学会	本邦における妊娠高血圧症候群の研究および診療の向上を図る。主な事業は学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	理事
草薙康城	日本産科婦人科学 会·日本産婦人科医 会	産婦人科関連において発生した医療訴訟に関して、医療面、法律面よりの鑑定を行う	鑑定人候補
草薙康城	日本産婦人科内視鏡学会	本邦における産婦人科内視鏡手術研究の向上を図る。主な事業は学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員•査読委員
草薙康城	愛媛県産婦人科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するとともに、女性の健康を 保持・増進し、もって国民の保健の向上に寄与することを目的とする。	常任理事(学術、が ん対策担当)、編集 委員
草薙康城	愛媛県女性の健康 支援事業連絡協議 会	愛媛県における、女性の健康の向上に寄与することを目的とする。	委員
草薙康城	愛媛県妊娠と糖尿 病研究会	愛媛県における周産期医療のうち糖尿病合併妊娠の管理を向上させることを目的とする。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人
草薙康城	愛媛県生活習慣病 予防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育 研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、コメディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行う。	理事
脇坂浩之	喀痰吸引等研修実 施委員会	「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための基本研修」における 実施委員会	委員
澤田忠幸	日本家族心理学会	家族心理学領域の研究を推進し, 詩乃進歩及び普及に貢献することを目指して1984年に設立。年2号の学術雑誌(「家族心理学研究」)を発行している。	学会誌常任編集委員
澤田忠幸	日本乳幼児教育学会	乳児・幼児に関わる教育学、心理学、教育内容、教育制度などを学問 的視座にたって研究を深め、学際的、国際的、総合的研究の発展と、 乳幼児教育の振興に寄与することを目的としている。年1号の学術雑 誌(「乳幼児教育学研究」)を発行している。	学会誌編集協力委 員(査読委員)
澤田忠幸	日本発達心理学会	本学会常設委員会の一つで、大会シンポジウムや年2回の地区シンポジウムの企画・運営、領域別の分科会や地区懇話会の活動支援など、学会員の研究交流・情報交換の場を積極的に作り、それらを支援していくことを目的としている。	国内研究交流委員 会委員長
加藤徳雄	降水トリチウム研究会	研究会の目的は、天然トリチウム利用による水循環調査技術の開発及び推進、及び原子力活用に伴う環境影響評価としての天然水中のトリチウム濃度の監視技術の開発。	委員

氏 名	委員会や団体 の名称				
加藤徳雄	NPO 科学を楽しむ 会ほうしこ	小学生に科学教室を提供し、科学と生活の関わりを実感しながら科学的な思考を育む手助けをすることを目的とする。活動内容は公民館や 児童館を巡回し、理科実験教室を開催する。	委員		
鳥居順子	愛媛県土壤汚染調 査·対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するため に設置されている。	委員		
鳥居順子	愛媛県公害審査委 員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易 迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく。	候補者		
鳥居順子	NPO法人禁煙推進 の会えひめ	喫煙の及ぼす有害性と禁煙の必要性を広く県内外に向けて啓発する。主な事業は世界禁煙デーに因んでの啓発活動、学校での喫煙防止教育、県や市町での禁煙啓発活動、研修フォーラムの開催。	理事		
鳥居順子	四国公衆衛生学会	公衆衛生全般に関する調査研究、知識の普及、等の事業の発展を図り、以て公衆衛生の増進に寄与するとともに、四国四県の関係機関の有機的連携を図る。主な事業は、学会総会の開催並びに学会機関誌の発行、四国公衆衛生研究発表会開催。	学会機関誌編集委 員		
鳥居順子	第86回日本産業衛 生学会	産業衛生に関する学術の振興と、勤労者の職業起因性疾患の予防及び健康維持増進を図り、もってわが国の学術と社会の発展に寄与することを目的にしている日本産業衛生学会の学術集会(平成25年5月開催)の企画運営に参画。	第86回日本産業衛 生学会·企画運営委 員		
相原ひろみ	日本看護研究学会	日本看護研究学会は、広く看護学の研究者を組織し、看護学の教育、研究及び進歩発展に寄与する事を目的に発足した学会であり、学術集会の開催、学術講演会の開催、学会誌の発行、奨学会事業、関係学術団体との連絡、提携等の事業を通して学会の目的を果たしている。	学会誌査読委員		
野本百合子	日本看護教育学学会	看護教育学の発展を図り、広く知識の交流を深めることを目的 として活動している。主な活動は、月1回の定例会と年1回の 学術集会の開催、学会誌の発行等である。	副理事長 編集委員		
野本百合子	愛媛県看護協会	愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年1回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催している。	教育委員 第32回愛媛看護研 究学会実行委員		
野本百合子	ワーキング(教育委	愛媛県内の中小規模病院が、看護協会の研修会を有効活用できるようなモデルを示すための検討ワーキンググループを組織し、リーダーを 務めている。	リーダー		
野本百合子	新人職員研修推進 協議会(愛媛県看 護協会)	県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置された協議会であり、新人看護職員の研修体制及びや指導者の育成のための検討や研修会を開催する。	委員		
野本百合子	地域看護力強化検 討会(愛媛県看護 協会)	県内のどの地域においても研修が受けやすい体制を整備し、また、近 隣の医療機関同士が連携を深め、ネットワークの構築を図り、地域に おける看護力を強化し、以て看護職員の確保及び定着に資することを 目的に設置された検討会であり、県下各地域における研修体制の整 備及び研修プログラムなどについて検討する。	委員		
野村美千江	全国保健師教育機 関協議会	全国の保健師教育機関の発展と、保健師教育の充実を図るために全 国規模で、教員研修会、保健師教育課程の検討、保健師国家試験対 策、地区別のブロック活動を実施している。	理事、国家試験対策 委員長		
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会。評議員は会長・副会長の選出や学会総会に付議する事項等を審議する。	評議員		
野村美千江	愛媛県認知症施策 推進会議	愛媛県における認知症施策を有効に推進する方略と市町支援につい て検討することを目的とする。	委員長		

	1		1
氏 名	委員会や団体 の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野村美千江	愛媛県後期高齢者 医療広域連合懇話 会	高齢者医療制度の改革により新たな制度の創設されるにあたり、現行制度が廃止されまでの間、県民の混乱や不安を招くことのないよう広域連合に対し意見や提言を行う。	委員
野村美千江	愛媛県社会福祉協 議会運営適正化委 員会	社会福祉法の規定により、福祉サービス利用援助事業の適正な運営 確保ならびに福祉サービスに関する苦情の解決を行う。	委員
野村美千江	松山市健康づくり計画策定委員会	新松山市ヘルスプロモーションプランの最終評価ならびに次期健康づくり計画の策定を行う。	専門委員
野村美千江	砥部町行財政改革 推進委員会	砥部町の行財政改革の推進に対し、意見や提言を行う。	委員
野村美千江	日本在宅ケア学会誌	在宅ケアに関する学術活動並びに在宅医学会他の団体と協働した在宅ケアの推進	査読委員
野村美千江	日本家族看護学会誌	家族看護学の発展に帰する学術活動と交際交流	査読委員
野村美千江	日本看護協会	中堅期保健師コンサルテーション検討委員会委員、コンサルテーションの実施	委員・コンサルタント
野村美千江	愛媛県看護協会	人材育成や分野間連携にかかる課題解決等の職能活動を行う。	保健師職能委員
野村美千江	日本学術振興会	研究費申請にかかる審査を行った。	科学研究費委員会 専門委員
窪田 静	愛媛県看護協会	「在宅ケア推進委員会」における訪問看護研修の計画・運営。 「在宅ケアを推進するための看護職の集い」の計画・運営。 「医療連携の現状の意見交換会」の計画・運営。	委員
窪田 静	三輪書店 地域リハビリテーショ ンジャーナル	編集企画における助言、査読、既刊誌の評価等。	編集同人
窪田 静	三輪書店 作業療法ジャーナ ル	編集企画における助言、査読、既刊誌の評価等。	編集同人
窪田 静	愛媛県社会福祉協 議会	「第1回えひめ福祉用具フェア実行委員会」の企画・運営・講師を行った。	委員
奥田美惠	愛媛県看護協会 まちの保健室運営 委員会	愛媛県における「まちの保健室」の運営、ボランティア育成、看護の日記念行事の企画・運営を行った。	委員
奥田美惠	愛媛県看護協会 選挙管理委員会	愛媛県看護協会推薦に委員の立候補および、平成26年度代議員及 び予備代議員の立候補・一般推薦の公募を行った。	委員
豊田ゆかり	NPO法人 ラ・ファミ リエ	ラ・ファミリエの主な活動はファミリーハウスの運営の他、講演会や相談会、サマーキャンプなど、慢性疾患の子どもとその家族への支援を実施している。そのための活動及び会議等に出席した。	理事
豊田ゆかり	松前町国民健康保 険運営協議会	松前町の国民健康保険の適正な運営状況に関して検討する会議に 出席し、意見を述べる。	委員(学識経験者代表)
北原悦子	日本看護科学学会 社員(代議員)	代議員会出席のほか、本学会、各種委員会からの宿題依頼(表彰論 文賞の査読:和文6編、英文4編および各種アンケートなど)に対応した。	社員 代議員
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

	員会や団体 の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
	看護診断学会	評議員会の出席(平成24年度評議員会の書記)以外に、各種委員会の依頼(看護診断用語の適切性など)のアンケートなどに対応した。	評議員
	看護管理学会 評議員)	平成24年4月1日~27年3月31日まで評議員を委嘱され、評議員会への出席以外に、本学会、各種委員会からの沢山の宿題依頼に対応した。(とりわけ、看護業務の中の特定業務などの形成と守備範囲などの事案) 平成26年8月に松山市で開催予定の第18回日本看護管理学会学術集会の準備を学会長とともに行っている。	社員 評議員
北原悦子	看護診断学会	学会誌の論文査読1編と第19回日本看護診断学会学術集会の演題3 題の査読を行った。	査読委員
北原悦子 福岡市	市助産師会	福岡市内助産師会は、母子保健の向上と助産師の知識・技術の向上 及び研修、会員の親睦を目的に活動を行っている。	理事
	看護学教育学 壬査読者	日本看護学教育学会学会誌の論文1編の査読を行った。	専任査読者
ト野井ス ルプー	^{ブラデシュ・メヘ} ール県看護学 立プロジェクト	NPO法人バングラデシュと手をつなぐ会は1989年に発足した。バングラデシュの農村部において、教育、保健医療、生活向上の分野で現地のNGOションダニ・ションスタと協働した取り組みを行っている。ションダニ・ションスタはメヘルプール県ガン二郡カラムディ村に発足した非政府組織である。ジャパニ小学校、ションダニスクール(小・中・高)の設立支援を実施している。農村部の新生児死亡率や妊産婦死亡率は高く、登録医師数51,993人、看護師数25,018人と2:1の比率で農村部には看護師不足が顕著である。そのため看護学校設立委員会が発足した。	委員
上野恭子福岡市	市助産師会	福岡市内助産師会は、母子保健の向上と助産師の知識・技術の向上 及び研修、会員の親睦を目的に活動を行っている。	理事
中越利佳 (社)日 愛媛リ	本助産師会 県支部	会員のためのニュースレターの発行	広報委員
今村朋子 (社)日	本助産学会	「第27回 日本助産学会学術集会」において、抄録査読を行った	査読委員
今村朋子 一般社 助産自	社団法人愛媛 師会	会員向けニュースレター(ひめじょ通信・年1回)の編集・発行、広報グッズ販売管理	広報委員長
	社団法人愛媛 師会 東予地	東予地区役員として組織運営に携わることで、助産師活動の活性化と 母子保健に貢献することを目的に活動。	監査役
森久美子 一般花	社団法人愛媛 師会	月1回の理事会で、活動や研修を協議した。また、総会要項理事会議議事録の作成、及び研修会の立案を行った。	理事(書記長) 教育委員
	性団法人日本 研究学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献、学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、委員会活動、東北大地震被災看護学生に対する支援金の呼びかけと適正配分。	大規模災害支援事 業委員会委員
中西純子 看護碩	社団法人日本 研究学会 ·四国地方会	地方会活動として、学術集会の開催、研究活動の推進(学術セミナー) 、ニューズレターの発行、運営委員会、学術委員会の開催等。	運営委員(学術委員 委員長)
中西純子 日本和	看護診断学会	看護診断の発展、普及を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研 究推進活動、等。	評議員 学会誌査読委員

氏 名	委員会や団体 の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	日本看護学教育学会	看護学教育の発展を目的に、学術集会開催、学会誌の発行、委員会活動等。	評議員
中西純子	愛媛県看護部長·教 務責任者協議会	県内の看護の質の向上と医療の発展に貢献するとともに、会員相互の情報交換・研鑽を図る。 年1回の総会及び年2回の研修会を開催した。	理事
中西純子	愛媛県看護職員職 場定着事業検討会	愛媛県医療対策課とともに、検討会の一員として研修会のプログラムを 計画・実施した。	検討委員(学識経験 者の立場から)
中西純子	日本看護研究学会 中国·四国地方会第 26回学術集会	「特別セミナー」の運営、示説の座長を担当した。	学術委員会委員長
中西純子	平成24年度介護職 員等によるたんの吸 引等のための研修 実施委員会(特定の 者及び不特定の者)	研修の企画、準備、運営、実施、、験問題の作成、実施、合否判定	実施委員
中西純子	平成24年度愛媛県 看護ネットワーク推 進検討会	中小病院看護職の離職防止のためのネットワークの構築や、認定管理 者等を活用した支援事業を計画した。	検討委員
山口利子	愛媛県看護連盟	年間活動計画の立案と実施	オブザーバー
西田佳世	日本糖尿病教育·看 護学会	糖尿病教育・看護の発展を図り、糖尿病教育・看護の向上に貢献する。学会活動に関する協議・計画。	評議員
西田佳世	日本糖尿病教育·看 護学会	糖尿病教育・看護の専門家として実践に応用できる研究の推進。学会 誌に投稿された糖尿病教育・看護に関する研究論文の査読。	学会誌査読委員
西田佳世	高齢者総合福祉施 設ひろた 第三者委 員	施設利用者の権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用できるように支援する。利用者・家族の苦情対応および施設サービス向上の推進を図る。	第三者委員
松井美由紀	日本看護研究学会 中四国地方会	運営委員として年間活動計画の立案と実施及び総括。学術集会にお ける学術委員会のプログラムについて検討。	運営委員 学術委員
松井美由紀	リレー・フォー・ライフ 実行委員会	実行委員として年間活動計画の立案と実施及び評価。リレー・フォー・ ライフの運営(チーム担当・受付全般)。	副実行委員長
松井美由紀	愛媛県	愛媛県がん看護実践に強い看護師育成事業企画。愛媛県がん看護 実践に強い看護師育成研修のファシリテーター。	研修企画担当者
松井美由紀	由紀 愛媛県看護協会 愛媛県看護協会研修活用システム検討ワーキングメンバーとして検討 会に参加。		ワーキングメンバー
岡村絹代	愛南町愛なん食育 プラン協働委員会	愛なん食育プランの実践に向けて、年3回の食育推進協議会に参加し、プラン実践と評価について、助言及び情報提供を行った。	委員
岡村絹代	愛南町ぎょしょく普 及推進協議会	愛南町水産物の利用促進活動の推進、及びぎょしょく教育を柱とした、ぎょしょく普及活動の推進。	委員
則松良明	日本臨床細胞学会	臨床細胞学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉 に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際 的な研究協力の推進。	評議員
則松良明	日本臨床細胞学会	日本臨床細胞学会における春季大会・秋期大会の学術内容の企画に 参画した。	プログラム委員
則松良明	日本臨床細胞学会	学会誌の査読を行った。	学会誌査読委員

氏 名	委員会や団体 の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
則松良明	日本臨床細胞学会愛媛県支部	臨床細胞学愛媛県支部の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行。	幹事
坂東史郎	日本検査血液学会	血液検査学の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行、標準化事業の推進、国際化、認定制度の推進を基本として活動。	評議員
坂東史郎	日本臨床検査 自動化学会	臨床検査の自動化に関する研究や技術の発展と交流に努め、人々の 健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行など を基本として活動。	評議員
坂東史郎	日本臨床検査 自動化学会	毎年1回、血液検査機器技術セミナーを開催し、血液検査における種々の問題点を提起・討議し、広く一般会員に参加を呼びかけ、各施設においての技術向上を目的とする。	血液検査機器 技術委員会委員
坂東史郎	日本臨床検査 自動化学会	日本臨床検査自動化学会会誌の論文査読を行う。 平成24年度は3編の査読を行った。	查読委員
坂東史郎	(社)日本臨床衛生 検査技師会	1)平成24年6月実施のサーベイデータ解析と報告書の作成。 2)平成25年度のサーベイ企画(血算部門、凝固部門、形態部門)、並 びに形態部門におけるフォトサーベイの設問作成	精度管理調査WG委 員
坂東史郎	四国臨床検査技師 会血液検査研究班 世話人会	平成24年12月2日開催の研修会企画最終決定と平成25年度第1回研修会開催企画立案。	監事
坂東史郎	四国ナノピア凝固・ 線溶研究会	四国地区において凝固・線溶検査の検討及び医療における役割等に 関し、情報交換や研究発表・講演等により会員相互の研鑽をはかると 共に交流の場とする。	顧問
伊藤 晃	(社)愛媛県臨床検 査技師会 愛媛県精度管理委 員会	愛媛県内の臨床検査施設を対象とした外部精度管理調査を実施し、報告書を作成する。	精度管理委員長
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会	リウマチならびに近縁疾患の研究及び診療内容の向上の目的のため 設置されている日本リウマチ学会の運営に参加。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会中 国四国支部会	中国・四国地区のリウマチならびに近縁疾患の研究及び診療内容の 向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会四国支部の運営 に参加。	評議員
佐田榮司	愛媛リウマチ研究会	愛媛県内のリウマチ診療の充実を図る目的で設立されている研究会の世話人として活動した。	世話人
高田智世	社団法人 愛媛県 臨床検査技師会	愛媛県内の臨床検査技師の学術活動や臨床検査の向上のための研修会やセミナー、講演会など年間計画の立案などを行った。年1回の学術誌の発行や学会・総会の開催を1回行った。	学術理事
高田智世	愛媛県衛生検査所 精度管理専門委員 会	愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため、精度管理に関する調査研究及び保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行った。衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席。	精度管理専門委員 会委員
高田智世	松山市衛生検査所 精度管理専門委員 会	松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席。	精度管理専門委員 会委員
大﨑博之	日本臨床細胞学会	臨床細胞学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献することを目的とする。主な事業は、学術集会の開催・学会誌の発行・国際的研究の推進である。	評議員
大﨑博之	日本細胞診断学推 進協会	細胞診専門医ならびに細胞検査士の知識、技能の向上のための研修活動を行うとともに、"正しい細胞診"について一般への普及啓発、あるいはそれに関連した諸問題の調査研究の推進ならびに細胞診を用いた検診等の事業を行った。	代議員
Hiroyuki Ohsaki	The International Academy of Cytology	The International Academy of Cytology is a scientific, non-profit organization of cytopathologists, cytotechnologists and other professionals concerned with research in and practice of clinical cytology.	Cytotechnologist Fellow
野島一雄	日本生理学会	生理学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進。	評議員

6. 講座の地域貢献活動

老年看護学領域の活動報告

看護学科成人·老年看護学講座

「高齢患者への看護・介護が見える記録に!」プロジェクト

老年看護学領域

西田佳世 准教授 岡村絹代 講師 梶原理絵 助教

1. 活動のきっかけ

平成24年6月末、地域交流センター長から、「高齢者の方が多く入院されているA病院から院内の看護職員研修に関する相談を受けている」との連絡があり、早速、A病院看護総師長と相談する機会を持ち、老年看護学領域担当者がA病院の看護・介護記録の充実に向けた取り組みのサポートを始めることになった。

A病院では、特性の異なる医療療養病棟と介護療養病棟があり、看護職と介護職が協働してケアを展開している中で、それぞれの職種に、どのような看護・介護記録が求められているのか、その整理に困っている状況であった。

そこで、「看護・介護記録をいい方向に変えていこう!」という看護・介護職員の意識を 大切にしながら、24年度は、まず、実践している看護・介護が他者に伝わる記録の記載を 増やし、「高齢患者への看護・介護が見える記録にする」ことを目標に、看護総師長、看護 師長、各病棟主任と一緒に、無理のない研修計画を作成し、活動を開始した。

2. 活動内容

<24年度研修計画>

8月 各病棟の課題抽出と24年度の目標設定

(看護総師長、看護師長、各病棟主任、西田、岡村、梶原)

- 10月 看護・介護記録の基本に関する講義(西田)
 - ・全職員が参加しやすいよう、同じ内容の講義を2回実施(10/3、10/10)
 - ・対象: A 病院の看護職・介護職、関連施設の介護保険施設および訪問看護 ステーションの看護職・介護職等(計 110 名)。
 - ・内容:看護記録の目的とその構成要素、看護記録に必要な記載内容と看護情報の特徴、高齢者が多い病棟や療養病床における看護記録の留意事項、 看護・介護記録の書き方(行うべきこと、行なってはいけないこと、 注意が必要なことなど)
- 11月 病棟別事例検討会(11/21 西田、岡村、梶原)
 - ・各病棟 1~2 事例(1 週間~10 日分の記録)を持ち寄り、病棟別にグループワークを行い、現在の記載内容の振り返りと課題抽出、取り組めそうな改善案の検討を実施。
 - ・参加者は、各病棟から師長・主任を含め、1病棟6~8名とし、看護・介護記録について関心がある職員とした(計22名)。
 - ・検討結果を参考に、各病棟 1~2 事例のモデルケースを決め、1 か月を目 処に実践を開始。
 - 1月 病棟別実践報告会(1/23 西田、岡村、梶原)
 - ・実践前、実践後の看護・介護記録を比較しながら、実践の評価と今後の課

題の抽出。

- ・参加者は、11月の事例検討会とほぼ同じメンバー(計22名)。
- 1月末 24年度の成果と課題の振り返り (1/30 西田、岡村、梶原)

(看護総師長、看護師長、各病棟主任、各病棟看護師 計8名)

・25年度に向けての計画と現状の課題解決に向けての意見交換

3. 活動の成果

毎回の研修時間は、約1時間と決めて実施し、毎回、参加者が多かった。10月の講義以外は、少人数のグループワークとしたため、意見交換が充実し、具体的な検討を行うことができた。

また、毎回、少しずつ、「看護・介護記録をいい方向に変えていこう!」という看護・介護職員、一人一人の意識やチームとしての意識がいい方向に変化している様子が実感でき、この研修をサポートしている私たちも嬉しく思いながら一緒に取り組むことができた。研修開始の頃は、業務しか見えてこない看護・介護記録が多かったが、1月の実践報告会では、「看護計画やケアプランの内容に目を通しながら書けるようになってきた」「他のスタッフの記録内容を読みながら、記載する機会が増えた」「このことは書いておいたほうがいいなと思うことが増えた」など、職員間で対象の反応やケアの成果を共有しようという大きな変化が実感できた。実践した看護・介護の評価についても前向きに取り組もうという声も聞くことができ、短期間のサポートではあったが、今年度の目標は達成することができ、この成果が生まれるきっかけとして加わることができたことは嬉しかった。

今回の取り組みは、サポートした私たちにとっても、看護記録の重要性を再認識すると同時に、慣れからくるリスクに気づき、臨床現場のスタッフとともに考え、学び、成長できる貴重な機会となった。今後の取り組みが、A病院で療養されている方々への看護・介護の充実、そして、看護・介護職員のやりがいと自信に繋がっていくことに期待したい。

(文責:西田)

~研修終了後、A病院看護総師長より、以下のコメントをお寄せいただきました~

療養病棟としての役割で地域貢献を目指す当院は、患者様が見えない記録に 課題を抱えておりました。

そこで、スタッフから自発的に記録の課題抽出ができること、行った看護が 見えることで専門職としてのモチベーションが上がることを目標に、愛媛県立 医療技術大学にご指導をお願いしました。年度途中での依頼にも関らず、快く 引き受けてくださり、本当に心強く、嬉しく感じました。

4回の勉強会を通し、スタッフの行動変化が記録にも少しづつ、見えてきました。本当のスタートは、これからですが、スタッフの背中を押してくださった先生方へ、感謝の気持ちで一杯です。

さらにこの状況を維持していけるよう、体制を整備し、一歩づつ前に進みたい と思います。

IV 学生の地域交流 活動報告

STS(ボランティア)サークル

代表 浅井 美里

私たち STS サークルはボランティアサークルとして活動しています。ボランティアの情報に関しては、主に松山市社会福祉協議会から月に一度届く「おせったい通信」のお知らせ、自分たちで入手した情報、大学の先生方からの依頼などから、情報を得ています。その情報の中から、自分たちが参加してみたいボランティアを見つけ、積極的に参加しています。ボランティア内容は様々であり、多くの場所でボランティア関係者の方とも接する機会があるので、色々勉強になります。平成 24 年度は以下の活動を行いました。

4月19日 成分献血(大街道献血ルーム)

5月27日 愛媛県障害者スポーツ大会

6月23日 子育てフェスタ

30日 子宮頸がん啓発キャンペーン、そうめん流し地域交流会

8月31日 ぶどう狩りボランティア

10月13日 リレーフォーライフ 2012(堀之内ふれあい広場)

14日 前日同様

11月 4日 遠足ボランティア(しおさい公園)

18日 福祉フェスタ(砥部中央公民館)



<愛媛県スポーツ大会競技場にて>

Peer サークル紹介

代表 尾屋家裕子

私たち Peer サークルは、県内の高校や専門学校、大学等に行かせていただき、サークル活動を行っています。

Peer というのは、「仲間」という意味です。同年代の私たちが、学生たちと同じ目線、同じ立場で「性」について考えたり、自分の思いをどうやって相手に伝えるかを考えたりすることで、それぞれが自分らしさを見つけていくことを目的に活動しています。

性についての話は、人前で話すことに抵抗がある方が多いかもしれません。また、実際に活動していて気付いたことですが、性に関することで、悩みをもつ生徒や学生の多くが誰に話せばよいのかわからなかったり、そのような機会がなかなかなかったりして一人で悩むこともあります。そのため、私たちPeer サークルのメンバーが活動することで、生徒や学生は、友達と接するのと同じような感覚で話すことができる利点があると感じています。それにより、少しでも対象の悩みや疑問を解消したいと思っています。また、活動している中で、私たち自身学ぶことも多く、自分を見つめなおすこともできています。

まだまだ課題の多い私たちですが、これからも先輩方が立ち上げたこのサークル活動を充実したものにしていきたいです。そして、Peerの活動をたくさんの人に知っていただき、活動を広げていきたいと思います。

はじめに体を動かすゲームをする ことで、緊張もほぐれ、楽しい雰 囲気で進んでいきます(右)。





状況を設定し、「こんな時じぶんだったらどうする?」と、自分に置き換えて考えてもらっています(左)。

手話サークル Sign

手話サークル Sign は、毎週月曜日の放課後に集まり楽しく手話を勉強しています。 将来、医療の現場で多くの方と関わっていく中で聴覚障がい者の方ともコミュニケーション がとれるよう指文字やあいさつ、日常会話から医療手話など将来役立つ手話を中心に学んで います。毎週の活動には、お二人のろうの方に講師としてきていただき部員はろうの方と交 流しながら手話を学び、修得した手話を実際に使うことで、より身近に手話を感じ自分のも のにしていくことができています。

昨年も、一昨年と同様に愛媛県東温市の手話サークル「ハッピー」に参加させていただきました。より高いレベルの手話を学ぶことができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。

また、昨年の学生祭では毎年恒例となっている手話コーラスを披露させていただき、手話サークル sign の日頃の練習の成果を多くの方に見ていただくことができたので、部員全員の自信になり、向上心をもった活動へと繋げることができました。

毎週の活動を通して、聴覚障がいの方と関わり自分の気持ちを伝えることや、相手の気持ちを読み取ることの難しさを痛感します。しかし、その反面では手話を使って意思疎通ができることの素晴らしさを実感することができ、手話を学ぶことで広がる世界があることを知りました。今後も、手話を通してさらに多くの方との交流の輪を広げていき、医療の現場で障がいをもった方の役に立てるよう、学びを深めていきたいと思います。





茶道サークル SAKURA





日々のお稽古は月2回、 外部から先生を2人お呼びして行っています。 季節で変わるお菓子やお花を楽しんだり、 お抹茶を頂いたり10月末の学生祭にむけて お点前の練習に励んでいます。 普段は味わえない落ち着いた和の雰囲気を楽しみながら活動しています。



学生祭



24年度の学生祭は10月27、28日に 「紅葉」というテーマで行いました。 着物や浴衣を着て、日頃練習してきた お点前を披露しました。 地域の多くの方に来ていただき ゆったりと流れる時間を 楽しんで頂けたと思います。



1. 学生ボランティア登録サイトの開設について

1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、 ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生 ボランティア登録サイトを開設します。

2. 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。自分の趣味・特技・資格・経験 やどんな活動ができるか等を登録してもらい、その趣旨にあったボランティア活動を紹 介します。

(2) 団体登録

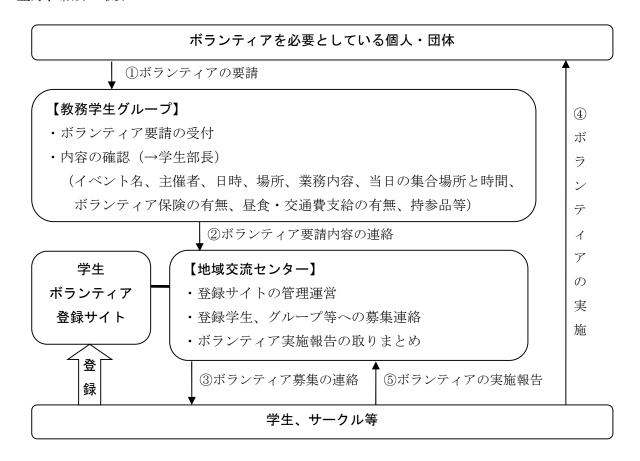
ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4. 登録、紹介の流れ



2. ボランティア登録制度の運用実績

- 1. ボランテイア登録数 個人登録 19 名, 団体登録 1 団体(2013.3.31 現在)
- 2. ボランテイア募集のメール発信呼びかけ件数 20件
- 3. ボランテイア活動の実績

学生ボランティア登録制度利用の実績(平成 24 年度)

	名 称	主催	時 期	場所	参加 学生 数	活動の内容
1	とべ子育て ぽっかぽかまつり	NPO ぽっかぽか	5月27日 (日)	砥部町 中央 公民館	K&K 8名	全体受付他健康度測定コーナー
2	愛媛県障害者 スポーツ大会	愛媛県	5月27日(日)	愛媛県 総合運 動公園	STS 15 名	大会運営補助, ソフトボール投 げと立幅跳びの 表彰場への誘導 係
3	とべ子育て フェスタ	NPO ぽっかぽか	6月23日 (土)	砥部町 中央 公民館	STS 6名	お仕事体験ブース (看護師・助産 師の2ブース担 当)
4	子宮頸がん啓発	愛媛新聞 NPO オレン ジの会	6月30日 (土)	いよてつ 高島屋	7名	パネル展示説明
5	AED 紹介	成人 老年学 講座	8月9· 10日	本学北棟	12 名	AED の指導
6	伊予ヶ丘 「ぶどう狩り」	老人保健施 設伊予ヶ丘	8月29日	富岡 巨峰園	11 名	ぶどう狩りをし ながらお年寄り

				(内子町)		と交流する
7	リレー・フォー・ラ イフ (実行委員会)	えひめ 実行 委員会	10月13・14日 (土日)	城山公園	STS サークル 中心 に4名	実行委員会のメ ンバーとして企 画から参加
8	リレー・フォー・ラ イフ (リレー参加・ボランティ ア)	地域交流センター	10月13・14日 (土日)	城山公園	97名	24 時間リレーウ ォークほか
9	おもしろ理科教室	地域交流センター	10月27 日 (土)	本学北棟	3名	子どもと保護者対象の理科実験
10	のもしつ垤件教主	地域交流センター	10月28日(日)	本学北棟	3名	子どもと保護者対象の理科実験

V 地域への施設 開放状況

V 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用されている。

○ストレッチ教室

活動概要:砥部町保険健康課 健康増進係(保健センター)がおこなっている、ストレッチ教室の火曜

教室開催にあたり、施設開放をおこなっている。

開放場所:体育館

開放日時:毎週火曜日 10:00~11:00

開催回数:年間36回 利用者 :砥部町住民

利用人数:30人程度/回 延べ人数1,096人



VI 参考資料

地域交流センターの組織(平成25年3月31日現在)

事業の企画、実施のためセンター長の外、センター員7名(教員5名、事務局職員2名が兼務) を配置している。

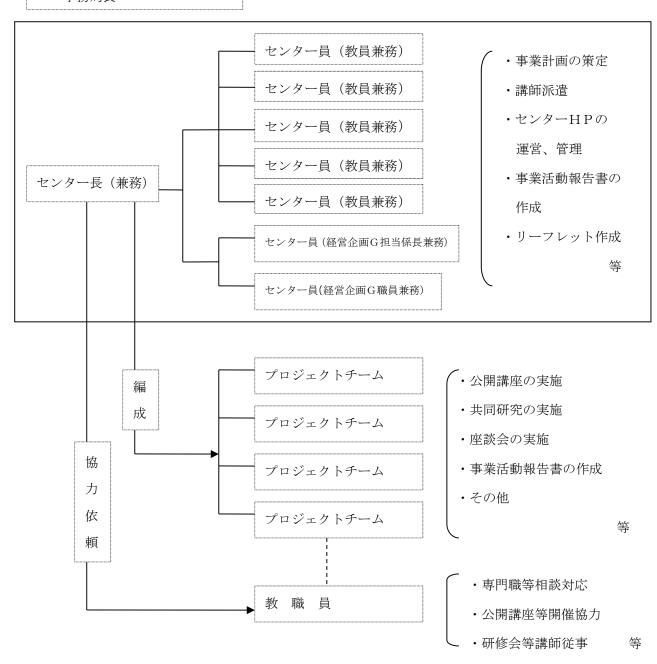
また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会(委員 5 名)を設置している。

地域交流センター運営図

センター運営委員会

- -・センター長
- ・学部長、教員(教授) 2名
- し・事務局長

- ・管理・運営に関する事項の調査・審議
- ・事業の企画、立案・実施に関する事項の調査審議
- ・その他センターに関し必要な事項の調査審議



公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程

平成22年規程第11号

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則(平成22年規程第2号。以下「学則」という。)第6条第2項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター(以下「センター」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学(以下「大学」という。)が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

- 第3条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする。
 - (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
 - ② 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
 - (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
 - 4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
 - ⑤ その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

- 第4条 地域交流センター長(以下「センター長」という。)は、センターに関する業務を統括する。
- 2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力 を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職 員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。
- 3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

- 第5条 第3条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。
- 2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を 経て、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

- 第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。
- 2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、 地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

平成22年規程第12号

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター 運営規程(以下「運営規程」という。)第6条第2項の規定に基づき、地 域交流センター運営委員会(以下「委員会」という。)に関し必要な事項 を定めるものとする。

(任務)

- 第2条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター (以下「センター」という。)に関する次の各号に掲げる事項を調査審議 する。
 - (1) 管理及び運営に関する事項
 - (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
 - (3) その他センターに関し必要な事項

(組織)

- 第3条 委員会は、委員5人をもって組織する。
- 2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

(任期)

- 第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

- 第5条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって 充てる。
- 2 委員長は、会議の会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(運営)

- 第6条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。
- 2 会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席 させ、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員 長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営

(平成25年3月31日現在)

【地域交流センター運営委員会】

委員長 野村美千江

(センター長)

委員 宮内 清子

(保健科学部長)

ル 高岡 亮

(事務局長)

豊田ゆかり

(看護学科教授)

リカス 則松 良明

(臨床検査学科教授)

【地域交流センター】

センター長 野村美千江

(看護学科教授)

センター員 加藤 徳雄

(看護学科講師)

リ 岡村 絹代

(看護学科講師)

リカック 中越 利佳

(看護学科講師)

リカ 岡村 法宜

(臨床検査学科助教)

ッツ 羽藤 典子

(看護学科助教)

リ 堀内 新也

(事務局経営企画グループ担当係長)

ッ 三好 陽子

(事務局経営企画グループ専門員)

愛媛県立医療技術大学地域交流センター活動報告書(平成24年度)

発行 平成 26 年 3 月

編集 愛媛県立医療技術大学地域交流センター

〒791-2101 愛媛県伊予郡高尾田 543 番地

TEL (089) 958-2111

FAX (089) 958-2177

E-mail center@epu.ac.jp